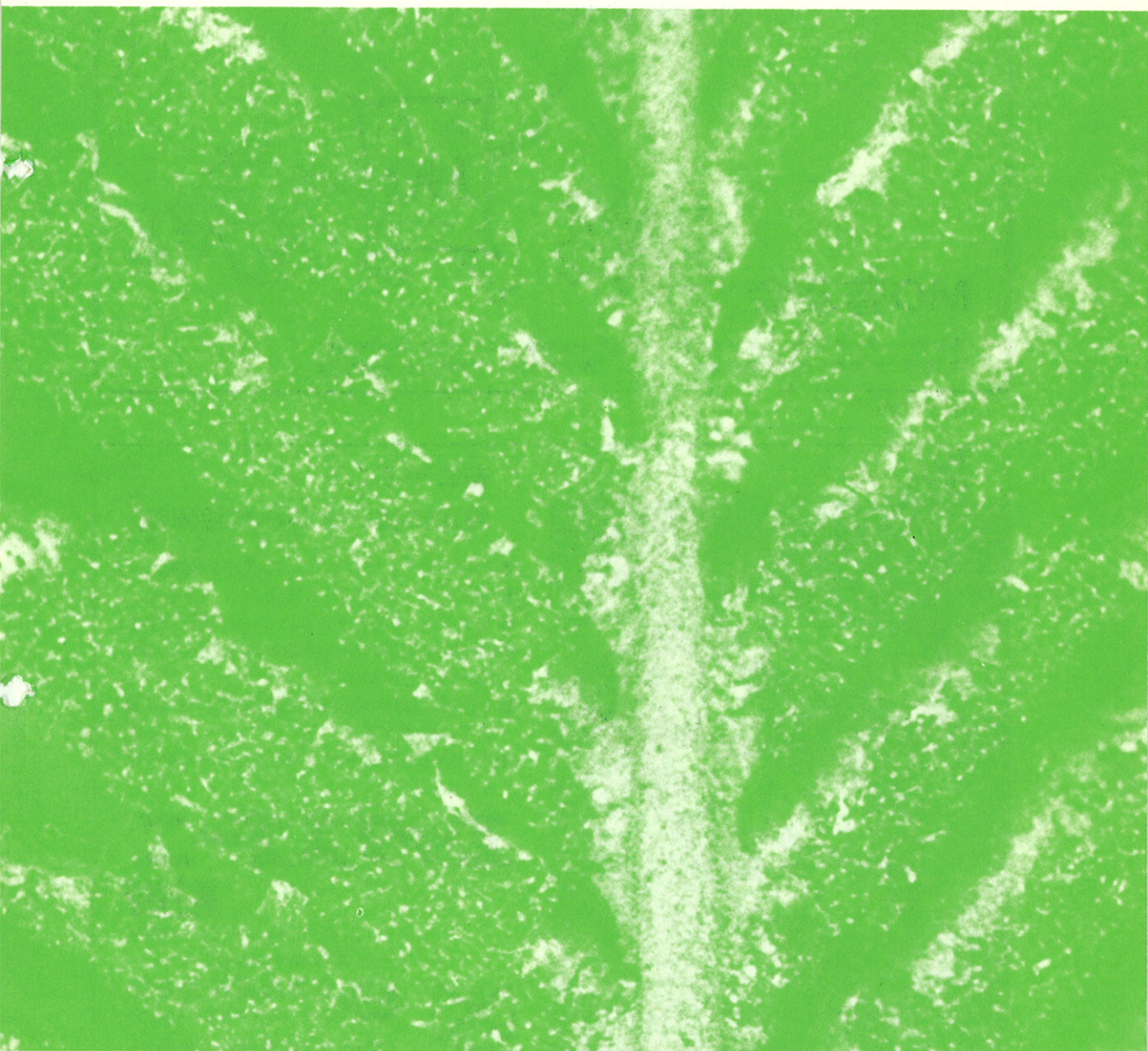


植調

第17卷第12号



財団法人 日本植物調節剤研究協会編

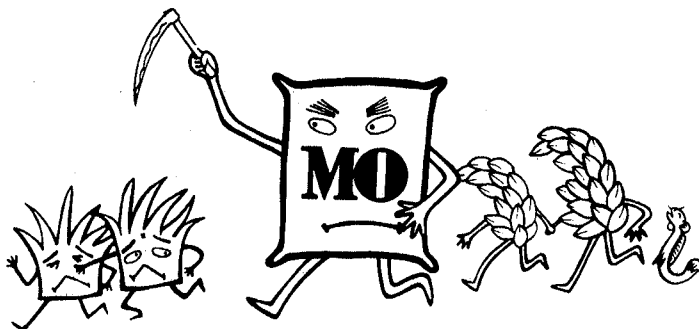
安全でよく効く!

——水田除草剤——

MO粒剤-9

(CNP除草剤)

MO普及会



取扱会社 クミアイ化学、三共、北興化学、八洲化学、日本農薬、サンケイ化学、三井東圧農薬
事務局 東京都千代田区霞が関3-2-5 (霞が関ビル) 三井東圧化学株式会社内



苗にやさしく

雑草に強い水田初期除草剤

- 効めが長く、すばらしい殺草力を発揮。
- 低温でもイネに対して安全。
- 人畜毒性、魚毒性ともにきわめて低く、安心。
- 田植前に使用の場合は散布後3日以上の間隔をあけて田植する。
- 田植後に使用の場合は田植後8日(ノビエ1葉)までに散布する。
- 散布後3日間以上は止水にし、かけ流しはしない。

エックスゴーニ® 粒剤

®は日本農薬と石原産業の共有登録商標

——エックスゴーニ協議会——



日本農薬株式会社
〒103 東京都中央区日本橋1-2-5



石原産業株式会社
〒102 東京都千代田区富士見2-10-30

○本剤のシンボルマークです

直播時代の幕明け

昨年、農林水産省の指導により農産業振興奨励会が運営に当たった低コスト水田作技術開発事業、すなわち湛水土壤中直播のテストは、全国13か所のモデル集団によって行なわれ、移植に対し23.7%の省力、7.2%の資材節約、収穫は99.9%と移植並となることが実証され、ほぼ予想通りの成績となった。

細かくいえば、播種機の性能不足、施肥体系の不備、鳥害（カモ）対策の遅れなど問題点が指摘されているが、本栽培法の普及について関係者に強い自信を与えた。

今年は西南暖地を中心に3000ヘクタール以上の水田が直播に代わって行くものと考えられ、日本式直播方式もようやく幕明けの時代を迎えたとの感が深い。

3年続きの不作は、農家の手抜き作業の結果だと非難がましい話もあるが、年々国民の所得水準が上がっている中で、少しでも労力を節約して時間当たりの収入を増やそうとするのは、当然の経済行為であって、さらに省力無人化へと進むのは、何も第二次産業だけの特技ではあるまい。その意味で、上記の数字は、単に低コストという以上の味わいがある。

それはそれとして、現在直播用の除草剤としては、ピラゾレートしかなく、ミズガヤツリなどに効果不十分であり、幅の広い残効のやや長い直播用除草剤の出現が望まれている。また、アオミドロによる水温の低下は、移植の場合より影響が大きく、その防除が切望されている。会員各位のご援助をお願いする次第である。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事 石本信夫〕
保土谷化学工業株式会社取締役農業部長

目 次 (第17巻第12号)

兵庫県における野菜花き栽培用除草剤・生育調節剤使用の現状と将来……………	2
＜兵庫県農業試験場 大西忠男＞	
1. は じ め に……………	2
2. 野菜栽培における除草剤・生育調節剤の利用状況……………	2
3. 花き栽培における除草剤・生育調節剤利用の現状……………	4
4. 除草剤使用上の問題点……………	4
5. 除草剤・生育調節剤の将来について……………	5
6. お わ り に……………	6

昭和58年度水稲作関係除草剤試験成績概要……………	7
---------------------------	---

＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞

第1表 水稲作関係除草剤適1試験成績判定結果一覧表……………	7
第2表 水稲作関係除草剤適2試験判定結果一覧表……………	11
第3表 水稲作関係除草剤適2使用基準一覧表……………	12

本誌掲載原稿の募集

本誌を愛読されている皆様より、原稿を募集しておりますので、ご寄稿下さい。内容は、除草剤、生育調節剤に関する記事であればよく、400字詰原稿用紙で20～30枚位、図・写真の挿入も可。原稿料は、当協会の規程によりお支払いいたします。

兵庫県における野菜花き栽培用

除草剤・生育調節剤使用の現状と将来

兵庫県農業総合センター農業試験場主任研究員 大西忠男

1. は じ め に

水稻栽培の除草作業は、除草剤の進歩により飛躍的に省力化が可能となった。野菜花き栽培への除草剤の利用は水稻の水準にはとうてい及ばないが、これらの利用の研究も急速に進められている。また、生育調節剤の利用により、野菜花きの新しい栽培技術も生まれた。ここでは、兵庫県における野菜花き用除草剤・生育調節剤の利用状況と、その問題点および将来についてふれてみたい。

2. 野菜栽培における除草剤・生育調節剤の利用状況

兵庫県における地域別の主要野菜の作付面積を第1表に示した。栽培面積の多い野菜を地域別にみると、淡路島ではタマネギ・ハクサイ・レタス・キャベツ、阪神地域ではキャベツ・ホ

ウレンソウ・ネギ・ハクサイ・トマト、播磨地域ではキャベツ・ダイコン・ナス・イチゴ・トマト、丹波地域ではヤマノイモ（この表には数字がのっていない）・ナス・ダイコン・キャベツ、但馬地域ではダイコン・キャベツ・ハクサイなどの栽培が多い。

このうち、集団的に栽培されている地域は淡路島であり、ここでは水稻＋ハクサイなどの秋冬野菜＋春植えタマネギに代表される水田の三毛作体系が広く行なわれ、全国的に有名な土地利用型農業が展開されている。そして、兵庫県の野菜の粗生産額のうち、約45%の生産額をあげている。

昭和57年度では、野菜栽培における除草剤の使用量は56.5t(kI)、使用金額163,089,000円で、除草剤全体の使用量の約2%、使用金額の約7%で、水稻にはとうていおよばないものの、

第1表 兵庫県における地域別の主要野菜の作付面積

(昭和55年度)

品目 地域	タマネギ	キャベツ	ハクサイ	ダイコン	レタス	トマト	イチゴ	ネギ	ホウレンソウ	ナス	シュンギク
	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha
淡路	2823	283	665	126	542	46	28	29	29	52	5
阪神	26	349	156	65	129	136	80	158	176	47	155
播磨	154	440	228	420	64	190	194	170	172	207	50
丹波	25	53	44	73	30	33	63	14	12	74	—
但馬	55	149	122	277	21	64	81	66	36	72	8
県計	3083	1273	1215	961	786	469	446	437	425	452	218

注) 兵庫の野菜(兵庫県農林水産部)より抜すい。

園芸作物のうちでは野菜畑での使用量および金額が最も多い。園芸・畑作および非農耕地用除草剤で使用量・金額の多いものを第2表に示した。使用量の最も多いものは、パラコート液剤で、使用量・金額とも全体の約37%である。また、同じ使用目的のグリホサート液剤も使用量の多い除草剤である。これら2剤で、使用量の44%、金額で58%を占めている。

第2表 兵庫県における園芸・畑作および非農耕地用除草剤の使用状況

除 草 剤 の 種 類	使用量 (t・k/)	使用金額 (千円)
パラコート液剤	47.2	135,936
塩素酸塩水溶液	19.7	8,668
トリフルラリン粒剤	10.2	5,780
ベンチオカーブ・プロメトリン乳剤	9.8	25,088
グリホサート液剤	9.4	76,328
MCC粒剤	5.7	2,869
IPC乳剤	5.3	14,310
CAT水和剤	4.5	18,450
トリフルラリン乳剤	3.8	20,596
ベンチオカーブ・プロメトリン粒剤	3.8	1,723
そ の 他 (19剤)	8.6	55,500
合 計	128.0	365,248

注) 兵庫県昭和57年度植物防疫実施成績書より抜粋。

本稿を書くにあたり、県下の使用状況のアンケート調査を行なったところ、これら2剤のけい畔、休耕田への使用の回答も多く、使用量の多いことをうかがうことができた。

これらはいずれも茎葉処理剤で、けい畔、休耕田、非農耕地および野菜花き栽培ほ場のうね間などの雑草を枯らすために用いている。ひと昔前では、人力で草刈りや草とり作業をしていたものを、除草剤で手軽に行なうことができるようになったため、使用量が増加したものと考えられる。手間のかかる農作業を除草剤で手軽に行なうという現代の風潮を反映しており、いわば「時代の申し子の除草剤の使用」とでも言えるものであろう。

園芸作物とくに野菜で使用量の多いものは、トリフルラリン粒剤、MCC粒剤、IPC乳剤、CAT水和剤、トリフルラリン乳剤の順である。これらは、いずれも兵庫県で一番栽培面積の多いタマネギに用いられているためである。ただ、トリフルラリン粒剤・同乳剤は、タマネギのほかにキャベツ・ハクサイ・ダイコンなど多くの野菜に登録があり、それらに使用されているため、使用量が多くなったものと考えられる。

このように、栽培面積の広い露地野菜や多くの野菜に使用されている除草剤は、使用量も多いのは当然であろう。

つぎに野菜別の除草剤の使用状況についてみると、タマネギでは栽植株数が稲なみに多く(10a当たり約3万株)、栽培期間が7か月と長いこともあって、IPC乳剤などの開発利用が早くから行なわれ、定植後と春季の2回に前述したような除草剤を用いている。

ハクサイ・レタス・キャベツは移植栽培が多く、移植後しばらくすると外葉が地表面をおおうため、雑草の発生量が少なければ実害をうけることもほとんどない。そのため、除草剤の使用は少ないが、産地によっては定植前または後にトリフルラリン粒剤などの除草剤を処理している。また、レタスでは黒マルチを利用するため、除草剤を必要としないものもある。

以上の野菜のほかに、イチゴの苗床にジフェナミド水和剤、アラクロール乳剤などが使用されている。

生育調節剤の兵庫県全体における使用量は、1.24 t (k/), 使用金額 165,732,000 円、そのうち野菜は 0.88 t (k/), 127,254,000 円で、園芸作物の中では最も多く使用されている。

野菜栽培に用いる生育調節剤は、ジベレリン水溶液と4-CPA液剤である。ジベレリンは

イチゴの生育促進に、4-CPAはトマトの着果促進のために用いられている。

3. 花き栽培における除草剤・生育調節剤利用の現状

兵庫県の主な生産状況を第3表に示した。産地は県下全体に点在しており、自然条件を生かして種類や作型が多様化している。

第3表 兵庫県の主な花き生産状況

(昭和56年度)

区 分	栽培面積 (ha)	生産量 (千本)	生産額 (千円)
キ			
電 照 ギク	15.2	5,877	209,484
その他キク	189.9	89,330	1,886,562
ク			
計	205.1	95,207	2,096,046
カーネーション	31.3	63,720	1,319,255
パ ラ	7.9	7,420	263,822
ユ リ	12.2	2,731	133,876
ス ト ッ ク	8.3	3,110	144,320
チュ ー リ ッ プ	4.2	1,715	99,100
枝 物	111.1	8,349	247,420
そ の 他 切 花	111.9	54,769	647,049
鉢 物	15.9	2,630	586,040
花 壇 用 苗 物	11.0	5,319	168,731
球 根 類	58.8	13,489	156,309

資料：兵庫県農産園芸課調べ。

地域別の花きの種類は、淡路島ではカーネーション・キク・スイセン・キンセンカ・ストック、阪神・播磨地域ではキク・カーネーション・新テッポウユリ・ダリア・アイリス、丹波地域ではキク・花木類、但馬地域ではチュウリップなどが栽培されている。このうち、大規模な産地は淡路島で、カーネーションは県下の75%、キンセンカおよびスイセンはほぼ100%、キクは3%の栽培面積がある。

花き類に使用されている除草剤は、登録のあるものが少ないことと、生産物の価格が高いため、薬害の危険性をおかしてまでの使用がなさ

れないため、使用量は比較的少なく、手取り除草をしているのが現状である。

除草剤の使用状況のアンケート調査で使用の多かったものは、パラコート液剤、グリホサート液剤で、花き栽培は場のけい畔、ハウス周囲、花木類の樹間などの雑草防除に用いられている。

次に多いのはトリフルラリン粒剤・同乳剤で、キク・ユリ・花木類などに用いられている。このように、花き栽培に用いる除草剤も野菜と同様、手軽に雑草を枯らすことのできる茎葉処理剤と、適応性の広い土壌処理型除草剤が多く用いられている。

生育調節剤は、Bナイン、オキシベロン、ルーションが用いられている。Bナインはキクのわい化（花首伸長抑制）に用いられている。オキシベロン、ルーションはキク・カーネーションの発根促進のために用いられている。

4. 除草剤使用上の問題点

除草剤は上手に使いこなせばこれほど便利なものはなく、逆にひとたび薬害が出ればこれほどむごいものもない。それゆえ「両刃の剣」にたとえられる。したがって、除草剤を使用する農家には正しい使用法を指導する必要がある。除草剤でなぜ雑草の防除ができるのか、上手に使うのにはどのような時期にどのようにして散布するのがよいのかななどを十分に理解してもらうように指導すべきである。とくに、除草剤を使いなれてくると、無茶な使用法をされることもある。これは、くれぐれもつつしむべきで、「初心忘るべからず」の精神で使用すべきである。

兵庫県の代表的野菜である淡路島のタマネギの栽培地帯では、除草剤の散布は降雨の翌日に行なわれている風景がよく見かけられた。これ

は、土壌が湿っているうちに散布することによって処理層を上手につくり、除草効果が高くなるのを農家の方々が理解しているためである。しかし、農家の中には「この除草剤は何倍で散布するのですか」などと質問される人もいた。殺虫剤・殺菌剤では、濃度によって効果が決まるため、倍率で散布濃度が表示されることが多い。しかし除草剤では、散布薬量によって効果や薬害が決定されるため、面積当たりの散布薬量が重要なのである。このようなことも、正しい除草剤の使用法として指導すべきであろう。

要は、正しい使用法で使用しなければ高い除草効果が得られず、逆に薬害の恐れもひそんでいる。除草剤の正しい使用法の指導を行ない、最小限の使用量で最大限の効果が得られるようにすべきであろう。

5. 除草剤・生育調節剤の将来について

除草剤・生育調節剤の将来とは？ 将来とは立場によっていろいろな意味にとれる。これらの剤を使う農家からすれば、使いやすい、安全性の高い、安価な剤が将来（今すぐにも）に開発されることを望むであろう。

一方、これらの剤を開発するメーカーの立場からすると、開発された剤がどのぐらい利用され、採算がとれるかどうかという将来の予測が重要であろう。

まず、この点についてみると、野菜や花きの栽培面積、とくに除草剤や生育調節剤を使用する品目がどう変化するであろうかがポイントとなる。除草剤の使用される露地野菜の面積は、兵庫県ではタマネギ・ハクサイ・キャベツなどはここ数年は栽培面積に変わりはないが、レタスが昭和40年前半より面積が急激に伸びてきたのが特徴である。今後、これらの野菜栽培面

積の急激な伸びは、期待されないのではないかと考えられる。ただ、野菜の栽培者は老令化が目だちは始めているため、雑草防除の省力化のため、除草剤の利用はまだ伸びるのではないかと考えられる。

また、散布労力の軽減のために、水和剤や乳剤よりも粒剤の方が手間がかからなくてすみ、栽培者の老令化、婦人化が進めば、粒剤を望むようになるのではないと思われる。

次に使用する側から、このことについて述べてみたい。使用する側からすると、栽培の合理化、省力化のために、雑草防除の問題は避けてとおれないところであり、今後安全性の高い除草剤の開発を望むところである。

安全性というのは二つの意味がある。一つは作物に対するものであり、もう一つは人間・動物・土壌に対するものである。

作物に対する安全性ということとは、いいかえれば作物に対して選択性があるということになる。前述したアンケート調査でも、将来開発を望むものとして選択性のある除草剤があげられていた。現在使われているものでも選択性のあるものも多く、除草剤を使う側としても注意しなければならないことがある。それは、同一作物や同じ科の作物の連作をやめて輪作体系を考えることである。たとえば、ハクサイにある除草剤を用いて毎年ハクサイを栽培すると、タネツケバナやナズナのようなアブラナ科の雑草が多く残るようになり「きかなくなった」と言われるようになる。これは、除草効果の少ない雑草が残ったためで、連作による弊害である。だから、すぐれた選択性の除草剤が開発されたとしても、それを使う側としては、同一の科の野菜や花きを連作するのではなく、異なった科の作物との輪作を考えることも大切である。

次に人間や動物および土壌に対する安全性も、たいへん重要なことである。現在でも登録に際しては、毒性や作物・土壌残留などのきびしいチェックが行なわれているが、除草剤や農薬などと一番多く接するのは薬剤散布者である農民であるので、野菜を食べる人々のみならず、野菜を生産する人々にとってもこれらの安全性の高いものを望むところである。

また、土壌残留についてもチェックはされているものの、今後除草剤の使用が多くなっても土壌残留の少ない、言い換えれば分解の早い除草剤の開発が望まれる。

これらの薬剤は、人間や動物および土壌に対する安全性が高いのにこしたことはなく、より安全性を高める努力を望むところである。

花きについては、キク以外には面積も少なく、その上多品目で、また今後飛躍的に伸びることもないのではないかと考えられる。そして、野菜と生産物の価格構成が異なることから、集約的な栽培が今後も続けられるであろう。しかし、今後は雑草防除の省力化のためには除草剤の利用も考えなくてはならないであろうし、使用できそうなものはどしどし試験を行なってもらいたい。

生育調節剤はこれまでに多くのものが開発され、それを利用して野菜や花きの新しい栽培技術が生まれた。たとえば、着果促進剤、生育促進剤、わい化剤などがそれである。これらのおかげで、冬季のハウストマトの着果促進、ハウ

スイチゴの生育促進、キクなどの花茎の伸長抑制などが安定して行なえるようになった。その意味では、生育促進剤の新技术開発への貢献度は大きいと言える。今後とも、農家のニーズにあわせた開発が必要であろう。さらに、花き栽培では家庭園芸や室内装飾品として鉢花や洋花類が有望視され、それらの周年供給が望まれているため、わい化、休眠打破、生育促進などの生育調節剤が要望されるのではないかと考えられる。ただ、花き類では効果に品種間差異が大きいなどの問題も多く残されており、効果試験も系統だてて行なう必要がある。

最後にアンケート調査で開発を望むものとして答えられたものをあげておく。

- ① スギナなど宿根雑草を根こそぎ枯らすことのできる除草剤
- ② 軟弱野菜、各種草花類などマイナークロップ用の除草剤
- ③ タマネギ・ネギの苗床用除草剤
- ④ キク・ユリの花茎伸長抑制剤
- ⑤ 価格の安い除草剤

などの開発であった。いずれも尤もなものと考えられ、今後の開発に期待するところが大きい。

6. おわりに

兵庫県における除草剤・生育調節剤の現状と将来について不十分ながら述べてきたが、とくに生育調節剤についてはその念が強いがおゆるしいいただきたい。

日本原色アブラムシ図鑑

森津孫四郎/著

A5判・550頁・カラー写真600点・定価6,800円

原色図鑑 衛生害虫と衣食住の害虫

安富和男・梅谷猷二/著

B6判・310頁・カラー写真317点・定価4,000円

全国農村教育協会

東京都台東区台東1-26-6(植調会館) 〒110 ☎03(833)1821

昭和58年度水稻作関係 除草剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

昭和58年度水稻作関係除草剤試験成績中央検討会は、昭和58年12月15～16日の2日間、植調会館において開催された。その結果の概要を報告する。

1) 第1次適用性試験(適1)成績の検討

昭和58年度の適1試験は、北海道地域(植調岩見沢試験地)、東北地域(植調古川試験地)、北陸地域(植調新潟試験地)、関東地域(植調研究所)、近畿地域(植調滋賀試験地)、中国地域(植調広島試験地)、四国地域(徳島県農業試験場)、九州地域(植調佐賀試験地)の全8地域で43薬剤(のべ238点)について実施した。その判定結果は、第1表のとおりである。

2) 第2次適用性試験(適2)成績の検討

昭和58年度の適2試験は、次のような内訳で実施した。すなわち、稚苗移植栽培の移植前の土壌混和处理(のべ55点)、移植前後土壌処理(133点)、移植後土壌処理(288点)、移植後茎葉兼土壌処理(47点)、適用時期拡大(84点)、特殊雑草防除(27点)、湛水直播栽培用(29点)、乾田直播栽培用(1点)、畦畔雑草用(19点)、体系是正用(148点)の総のべ点数は831点であった。これら試験の判定結果は第2表、実用化可能と判定された除草剤の使用基準は第3表のとおりである。

第1表 昭和58年度水稻作関係除草剤適1試験成績判定結果一覧表

No	薬 剤 名	剤 型	有効成分および含有率(%)	試験実施地域	判 定 結 果 概 要	
1	AH-40	粒	未 公 開 8	北海道, 近畿, 九州 (3)	□	
2	AH-41	粒	未 公 開 (3種) 8 + 1.5 + 0.8	北海道, 東北, 北陸, 関東, 近畿, 中国, 九州 (7)	□～○	一年生・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ, 効果の変動あり。
3	BAS-514	粒	未 公 開 1	北海道, 東北, 四国, 九州 (4)	□	
4	CG-113(改)	粒	CG-113 2	関東, 四国, 九州 (3)	○	薬害は従来剤に比べ軽減された。効果については従来剤と変わらない。

No	薬 剤 名	剤 型	有効成分および含有率(%)	試験実施地域	判 定 結 果 概 要	
5	CH-831	粒	R-4574 8 既知化合物 2 + 1.3	北海道, 東北, 北陸, 関東, 近畿, 四国, 九州. (7)	□	
6	CH-832	粒	R-4574 10 既知化合物 0.7 + 1.5	北海道, 東北, 北陸, 関東, 近畿, 四国, 九州. (7)	□	
7	DPX-84	粒	DPX-84 0.25	北海道, 東北, 北陸, 関東, 近畿, 中国, 九州. (7)	温暖地以北□ 暖 地 △	
8	DPX-84A	粒	DPX-84 0.25 ベンチオカーブ 7	北海道, 東北, 北陸, 関東, 近畿, 中国, 九州. (7)	全 域 ○	一年生・マツバイ・ホタルイ・ヘ ラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤ ツリ・クログワイ(ノビエ2Lま で).
9	DPX-84A①	粒	DPX-84 0.17 ベンチオカーブ 7	北海道, 東北, 北陸, 関東, 近畿, 中国, 九州. (7)	温暖地東部以 北 ○ 温暖地西部以 西 ◎	一年生・マツバイ・ホタルイ・ヘ ラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤ ツリ・クログワイ・ヒルムシロ(ノ ビエ2Lまで).
10	DPX-84M	粒	DPX-84 0.25 MY-93 10	北海道, 東北, 北陸, 関東, 中国, 九州. (6)	温暖地東部以 北 ○ 温暖地西部以 西 ◎	一年生・マツバイ・ホタルイ・ヘ ラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤ ツリ・クログワイ・ヒルムシロ(ノ ビエ2Lまで).
11	DPX-84M①	粒	DPX-84 0.17 MY-93 10	北海道, 東北, 北陸, 関東, 近畿, 中国, 九州. (7)	温暖地東部以 北 ○ 温暖地西部以 西 ◎	一年生・マツバイ・ホタルイ・ヘ ラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤ ツリ・クログワイ・ヒルムシロ(ノ ビエ2Lまで).
12	FSB	粒	NTN-801 3.5 ピラゾレート 4 ペンタゾン(Na) 5.5	北海道, 東北, 北陸, 関東, 近畿, 中国, 九州. (7)	寒 地 ○ 寒冷地以西◎	一年生・マツバイ・ホタルイ・ヘ ラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤ ツリ・ヒルムシロ(ノビエ2.5～ 3Lまで).
13	HMT-317	粒	HW-52 7 ナプロアニリド 7 S-47 6	東北, 北陸, 関東, 近畿, 中国, 九州. (6)	□	
14	KUH-831	粒	未公開(新規化合物) 2	東北, 関東, 九州. (3)	△	
15	KUH-832	粒	KUH-831 (新規化合物) 2 ベンチオカーブ 7	北海道, 東北, 北陸, 関東, 近畿, 四国, 九州. (7)	□	

No	薬 剤 名	剤型	有効成分および含有率(%)	試験実施地域	判 定 結 果 概 要	
16	MK-161	粒	未公開（新規化合物） 2	北海道，東北， 北陸，関東， 近畿，四国， 九州。（7）	△	
17	MK-162	粒	未公開（新規化合物） 3	北海道，東北， 北陸，関東， 近畿，四国， 九州。（7）	△	
18	MT-227	粒	MT-124 既知化合物 2 4	北海道，東北， 関東，近畿， 九州。（5）	寒地，寒冷地 ◎ 温暖地 ○ 暖地 ×	一年生・マツバイ・ホタルイ・ヘ ラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤ ツリ（ノビエ1.5Lまで）。
19	MT-228	粒	MT-124 既知化合物 15 8	北海道，東北， 関東，近畿， 九州。（5）	温暖地以北□ 暖地 ×	
20	MY-45	粒	MY-71 既知化合物 5 4	北海道，東北， 北陸，関東， 近畿，中国， 九州。（7）	全 域 ○	一年生・マツバイ・ホタルイ・ヘ ラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤ ツリ（ノビエ1.5Lまで）。
21	MY-93SM	粒	MY-93 シメトリン MCPB 10 1.5 0.8	北海道，東北， 北陸，関東， 近畿，中国， 九州。（6）	□	
22	NC-309	粒	未公開（2種） 1.2 + 1.5	北海道，東北， 北陸，関東， 近畿，中国， 九州。（7）	□	薬害について検討。
23	NTN-831	粒	NTN-801 ナプロアニリド S-47 3.5 7 4	北海道，東北， 北陸，関東， 近畿，四国， 九州。（7）	全 域 ○	一年生・マツバイ・ホタルイ・ヘ ラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤ ツリ（ノビエ2.5Lまで）。
24	S-476	粒	未公開（2種） 4 + 0.07	北海道，東北， 北陸，関東， 四国。（5）	□	
25	SDH-44	粒	未公開（2種） 4 + 4	北海道，東北， 北陸，関東， 近畿，四国， 九州。（7）	△	
26	SL-496 (UO-2)	粒	SL-49 CG-113 8 1.5	北海道，東北， 北陸，関東， 九州。（5）	全 域 ○	一年生・マツバイ・ホタルイ・ヘ ラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤ ツリ（ノビエ1.5Lまで）。

No.	薬 剤 名	剤 型	有効成分および含有率(%)	試験実施地域	判 定 結 果 概 要	
27	SL-496 ㊦ (UO-4)	粒	SL-49 6 CG-113 1.5	北海道, 東北, 北陸, 関東, 九州. (5)	全 域 ○	一年生・マツバイ・ホタルイ・ヘ ラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤ ツリ(ノビエ1.5Lまで).
28	SR-831	粒	未公開(2種) 1.5 + 5	北海道, 東北, 北陸, 関東, 近畿, 四国, 九州. (7)	寒地, 寒冷地 ○ 温暖地以西△	一年生・マツバイ・ホタルイ・ヘ ラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤ ツリ(ノビエ1.5Lまで).
29	TH-420	粒	未公開(新規化合物) 4	東北, 関東, 九州. (3)	△	
30	TH-819	粒	未公開(新規化合物) 7	東北, 関東, 九州. (3)	△	
31	UBH-9B	乳	未公開(2種) 6 + 10	北海道, 東北, 北陸, 関東, 近畿, 中国, 九州. (7)	寒地～温暖地 ○ 暖 地 △	一年生・マツバイ・ホタルイ・ヘ ラオモダカ・ミズガヤツリ(土壌 混和).
32	UBH-16B	粒	未公開(3種) 5 + 1.5 + 0.8	東北, 北陸, 関東. (3)	□	
33	UBH-26	粒	未公開(2種) 7 + 7	北海道, 東北, 北陸, 関東, 近畿, 中国, 九州. (7)	□	
34	UBH-28	粒	未公開(2種) 4 + 7	北海道, 東北, 北陸, 関東, 近畿, 中国, 九州. (7)	□	
35	UBH-30	粒	未公開(2種) 8 + 7	東北, 関東. (2)	△	
36	UBH-32	粒	未公開(2種) 7 + 7	北海道, 東北, 北陸, 関東, 近畿, 中国, 九州. (7)	□	
37	UBH-33	粒	未公開(2種) 8 + 8	東北, 関東. (2)	□	
38	UBH-34	粒	未公開(2種) 5 + 8	東北, 関東. (2)	□	
39	YH-452	粒	未公開(3種) 5 + 5 + 1.5	北海道, 東北, 北陸, 関東, 近畿, 中国. (6)	温暖地東部以 北 ○ 温暖地西部□	一年生・マツバイ・ホタルイ・ウ リカワ・ミズガヤツリ(ノビエ2.5 ～3.0Lまで).

No	薬 剂 名	剂 型	有効成分および含有率(%)	試験実施地域	判 定 結 果 概 要	
40	YH-453	粒	未公開(2種) 8+6	北海道, 東北, 北陸, 関東, 近畿, 中国, 九州. (7)	寒 地 △ 寒冷地以西○	一年生・マツバイ・ホタルイ・ウ リカワ・ミズガヤツリ(ノビエ2.5 Lまで).
41	YH-455	粒	未公開(3種) 5+6+1.2	北海道, 東北, 北陸, 関東, 近畿, 中国, 九州. (7)	全 域 ○	一年生・マツバイ・ホタルイ・ヘ ラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤ ツリ(ノビエ3Lまで).
42	MK-161	乳	未公開 8	東北, 関東, 中国. (3)	□	
43	MK-162	乳	未公開 8	東北, 関東, 中国. (3)	□	

注) 判定欄の記号については, ◎:極めて有望, □:可能性あり, △:再検討, ×:見込なし, を示す.

第2表 昭和58年度水稻作関係除草剤適2試験判定結果一覧表

判 定 区 分	実	実 ・ 継	継	継?	中止
II-1 土壤混和处理		ブタクロール乳, CGS-88乳, YH-431乳.	MT-228乳.		
II-2 移植前後土壤処理		ブタクロール粒, CG-113粒, CG・SW①粒, CH-81粒, M SW-2粒, MT-124粒, MT -225粒, SL-49粒, YH-411 ①粒.	MT-227粒, S-476粒, MY-71粒, MY-93・E粒, SR-815粒, CG-113(改)粒.		
II-3 移植後土壤処理	SB-77 ②粒.	SB-77②粒, DPX-84・A粒, FS-356粒, MM-3粒, MT・ CG①粒, NTN-801粒, NTN -804粒, S-471粒, S-473 粒, SL-493粒, SL-495粒, SR-811粒.	DPX-84・M粒, DPX-84・ M①粒, MY-45粒, CG-113 (改)粒, CG・SW①(改)粒, D PX-84・A①粒, HMT-317 粒, KNW-243粒, KNW- 244粒, MT・CG①(改)粒.		
II-4 茎葉兼土壤処理		NTN-805粒, NTN-806粒, SL-494粒.	MY-935・M粒, NY-433粒.		
II-5 適用時期拡大	B-3015 ・S粒, B-3015 ・SM③ 粒.	B-3015・S・BAS粒, HOK- 05・M粒, HW-52・SM粒, K H-199粒, KUH-812粒, M CP・BAS(Na)液, MCP・BA S(Na)①液, NTN-806粒, S L-49粒, TH-80粒.	MY-93・SM粒.		
II-6-(1) クログワイ 対象		BAS-3510粒.			
II-6-(2) オモダカ対象			S-28・SM粒.		

判 定 区 分	実	実 ・ 継	継	継 ?	中止
Ⅱ-6-(5) シズイ対象	B-3015 ・BAS 粒.	TH-63粒.	MCP・BAS(Na)Ⓔ粒.		
Ⅱ-6-(6) エゾノサヤ ヌカグサ対象		TH-63粒, SMX粒, BAS- 3510粒.	HOK-05・A粒.		
Ⅱ-6-(7) クサネム対 象		<u>HOK-05・A粒.</u>			
Ⅱ-6-(8) ウリカワ対 象			シメトリン・MCPB粒.		
Ⅲ-1 湛水直播		HW-52粒, <u>HW-52Ⓔ粒</u> , M Y-93粒, SL-49粒.	MY-93・E粒, MC-79粒, BAS-514粒.		
Ⅲ-2 乾田直播		<u>TH-80粒.</u>			
Ⅳ 畦畔雑草		<u>Hoe-866液</u> , <u>NC-412HW</u> <u>水和</u> , <u>NHS-25液</u> , NHS- 60水溶.	DBN粒.		
Ⅶ 体系是正	MM-3 粒, MS -256粒, MS-358 粒.	<u>FSB粒</u> , <u>NTN-831粒</u> , <u>SL-</u> <u>496粒</u> , <u>SL-496Ⓔ粒</u> , CG・ SWⒺ粒, MT・CGⒺ粒, SB -77粒, SL-494粒.			

- 注：1) 本年度は「継?」「中止」と判定された薬剤はなかった。
2) 本年度新規に使用基準の作成されたものは薬剤名にアンダーラインを入れた。
3) 2つ以上の区分にまたがるものについては、主要区分に統一整理した。

第3表 昭和58年度水稻作関係除草剤適2使用基準一覧表

区 分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ-1 稚苗…土壌混和処理	1) ブタクロ ール乳 (マーシェ ット乳)	土 壌 混 和 処 理	寒地.	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ヘラオモダ カ.	植代直後 (<u>-6</u> ~-3).	ml/a 35~50 〔但し、 寒地は 40~50、 温暖地 東部の 早期は 50.〕	壤土~埴 土(1cm /日以下). 〔但し、 寒冷地、 温暖地 東部早 期は2 cm/日 以下.〕	1) 低気温および低水 温時の使用は、薬害 の危険性があるので 使用をひかえる。 2) ごく浅植えの場合、 薬害のおそれがある ので注意する。
			寒冷地.	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ミズガヤツ リ.				
			温暖地東部 の普通期、 早期.	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ミズガヤツ リ.				

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ-1 稚苗：土壌混和処理（つづき）	1) ブタクロール 乳（つづき）		温暖地西部以西の普通期。	一年生雑草・マツバイ。				
	2) CGS-88 乳	土壌混和処理	全域の普通期，温暖地西部以西の早期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ。 〔但し，ヘラオモダカは寒地のみ。〕	植代直後，整地板前（－3）。	ml/a 50～75	壤土～植土（2 cm/日以下）。 砂 壤 土（1 cm/日以下）。 〔但し，温暖地東部以北は砂壤土を除く。早期は壤土～植土（1 cm/日以下）。〕	1) 移植後の深水はさける。
	3) YH-431 乳	土壌混和処理	全域の普通期，温暖地東部の早期。	一年生雑草・マツバイ・ヘラオモダカ。 〔但し，ヘラオモダカは寒地・寒冷地のみ。〕	植代直後，整地板前（－3）。	ml/a 50～65	壤土～植土（2 cm/日以下）。 砂 壤 土（1 cm/日以下）。 〔但し，砂壤土は温暖地西部以西のみ。〕	1) 移植後の深水はさける。
Ⅱ-2 移植前後土壌処理	1) ブタクロール 粒（マーシェット粒）	土 壌 処 理	寒地。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ。	－8～＋10（ノビエ 1.5 L まで）。 ホタルイ：発生前～2 L。 ヘラオモダカ：発生前～始。	g/a 200～300	壤土～植土（2 cm/日以下）。	1) 極端な浅植えはさける。 2) 低温時には使用しない。 3) 200 g/a 散布は多口ホース散布とする。 4) 早期での移植前3日以内の処理は薬害の危険性が大きい。
			寒冷地，温暖地の普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ミズガヤツリ。 〔但し，ヘラオモダカは寒冷地の田植前の〕	－6～－3，＋3～＋10（ノビエ 1.5 L まで）。 ホタルイ：発生前～2 L。 ヘラオモダカ：発生前～始。 ミズガヤツリ：	田植前 200～ 田植後 300		

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
II 1 2 移植前後土壌処理 (つづき)	1) ブタクロール 粒 (つづき)			み、	発生前～3 L.			
			温暖地東部の早期.		-6～-4, +3～+8 (ノビエ1.5 L まで). ホタルイ・ミズガヤツリ: 発生前～2 L.	g/a 300		
			暖地の早期・普通期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ミズガヤツリ.	-6～-3 (早期のみ). +3～+10 (ノビエ1.5 L まで). ホタルイ: 発生前～2 L. ミズガヤツリ: 発生前～2 L.	田植前 200～ 300 田植後 300		
	2) CG-113 粒 (ソルネット 粒)	土 壌 処 理	寒地, 寒冷地.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ミズガヤツリ. 〔但し, ミズガヤツリは寒冷地のみ.〕	-5～+10 (ノビエ1.5 L まで). ホタルイ・ヘラオモダカ・ミズガヤツリ: 発始まで.	g/a 300	砂壤土～埴土 (2 cm/日以下). 〔但し, 寒地は砂壤土を除く.〕	
			温暖地の早期・普通期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ミズガヤツリ. 〔但し, ヘラオモダカは温暖地東部のみ.〕	-3～+10 (ノビエ1.5 L まで). ホタルイ・ヘラオモダカ・ミズガヤツリ: 発始まで.		埴土～埴土 (2 cm/日以下). 〔但し, 温暖地西部の普通期は埴土～埴土 (1 cm/日以下) とする.〕	
			暖地の早期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ミズガヤツリ.	+0～ノビエ1 L まで. ホタルイ・ミズガヤツリ: 発始まで.		埴土～埴土 (2 cm/日以下). 砂 埴 土 1.5 cm/日以下).	
			暖地の普通期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ミズガヤツリ.	-3～+7 (ノビエ1.5 L まで). ホタルイ・ミズ		〔但し, 普通期は砂埴土を除	

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用 量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 2	2) CG-113 粒 (つづき)	土			ギャツリ：発生 始まで。		[く。]	
移 植 前 後 土 壌 処 理 (つづき)	3) CG・SW ①粒 (クサホープ 粒)	土 壌 処 理	寒地。	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ヘラオモダ カ・ウリカワ・ ヒルムシロ。	-3～+14 (ノ ビエ 1.5 L ま で)。 ホタルイ・ヘラ オモダカ：2 L まで。 ウリカワ：発生 前～始。 ヒルムシロ：発 生期。	g/a 300 ～ 400	砂壤土～ 埴土 (2 cm/日以 下)。	1) ピラズレートに準 ずる。 2) 泥炭質土壌では、 ウリカワに対する効 果が低下することが ある。
			寒冷地、温 暖地東部の 早期・普通 期。	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ヘラオモダ カ・ウリカワ・ ミズギャツリ・ ヒルムシロ。 (但し、ヒルム シロは普通期 のみ。)	-3～+10 (ノ ビエ 1.5 L ま で)。 ホタルイ・ヘラ オモダカ・ミズ ギャツリ：発生 始まで。 ウリカワ：2 L まで。 ヒルムシロ：発 生期。			
			温暖地西部 の早期・普 通期。	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ウリカワ・ ミズギャツリ・ ヒルムシロ。	-3～+7 (ノ ビエ 1.5 L ま で)。 ホタルイ・ミズ ギャツリ：発生 始まで。 ウリカワ：2 L まで。 ヒルムシロ：発 生期。			
			暖地の普通 期。	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ウリカワ・ ヒルムシロ・ミ ズギャツリ。	-3～+7 (ノ ビエ 1.5 L ま で)。 ホタルイ：発生 前。 ウリカワ：2 L まで。 ミズギャツリ： 発生始まで。 ヒルムシロ：発 生期。			
			暖地の早期。	一年生雑草・マ	+0～+10 (ノ		砂壤土～	

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 1 2 移植前後土壌処理(つづき)	3) CG・SW ①粒 (つづき)			ツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ.	ビエ 1.5 L まで). ホタルイ：発生前. ウリカワ：2 L まで. ミズガヤツリ：発生始まで.		埴土 (1 cm/日以下).	
	4) CH-81 粒	土 壌 処 理	寒地.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ.	- 3 ~ + 10 (ノビエ 1.5 L まで). ホタルイ・ヘラオモダカ：発生始まで.	g/a 300 ~ 400	砂埴土 ~ 埴土 (2 cm/日以下).	1) 深水処理はさける. 2) コナギ・ホタルイ・ミズガヤツリは早目に処理する.
			寒冷地.	一年生雑草・マツバイ・ <u>ホタルイ.</u>			埴土 ~ 埴土 (2 cm/日以下).	
			温暖地東部の早期・普通期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ミズガヤツリ.	- 3 ~ + 7 (ノビエ 1.5 L まで). ホタルイ・ミズガヤツリ：発生始まで.		〔但し、 暖地は埴埴土 ~ 埴土 (2 cm/日以下).〕	
			温暖地西部以西の普通期.	一年生雑草・マツバイ・ <u>ホタルイ.</u> 〔但し、ホタルイは温暖地西部のみ.〕				
	5) MSW-2 粒	土 壌 処 理	寒地.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ.	0 ~ + 5 (ノビエ 1 L). ホタルイ・ヘラオモダカ：発生始まで.	g/a 300	埴土 ~ 埴土 (2 cm/日以下).	
			寒冷地.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ミズガヤツリ.	- 3 ~ + 5 (ノビエ 1 L まで). ホタルイ・ミズガヤツリ：発生始まで.			
			温暖地東部の早期・普通期.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ.	- 3 ~ + 5 (ノビエ 1 L まで). ホタルイ：1 L まで.		砂埴土 ~ 埴土 (2 cm/日以下).	
			温暖地西部の早期・普通期.				埴土 ~ 埴土 (2 cm 以下). 〔但し、〕	

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
II 2 移植前後土壌処理(つづき)	5) MSW-2 粒 (つづき)						早期は 1cm/ 日以下.	
	6) MT-124 粒	土 壌 処 理	寒冷地北部, 温暖地, 暖 地の普通期.	一年生雑草・マ ツバイ.	-3~+5 (ノ ビエ1Lまで).	g/a 300 ~ 400 〔但し, 温暖地 は300 のみ.〕	寒冷地北 部, 温暖 地西部: 壌土~埴 土(2cm /日以下). 温暖地東 部: 砂壌 土~埴土 (2cm/ 日以下). 暖地: 埴 壌土~埴 土(1.5 cm/日 以下).	1) 処理後の深水をさ ける.
	7) MT-225 粒	土 壌 処 理	寒地, 寒冷 地, 温暖地 東部, 暖地 の普通期.	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ヘラオモダ カ. 〔但し, ヘラオ モダカは寒地 ・寒冷地のみ.〕	-3~+5 (ノ ビエ1Lまで). ホタルイ・ヘラ オモダカ: 発生 始まで.	g/a 300 ~ 400 〔温暖地 東部は 300.〕	壌土~埴 土(2cm /日以下). 〔但し, 寒地は (1.5 cm/日 以下). 暖地は 埴壌土 ~埴土 (1.5 cm/日 以下).〕	1) 処理後の深水はさ ける.
	8) SL-49 粒 (ノバイサー粒)	土 壌 処 理	寒地. 寒冷地以西 の早期・普 通期.	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ヘラオモダ カ・ウリカワ・ ヒルムシロ. 一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ヘラオモダ カ・ウリカワ・ ミズガヤツリ・ ヒルムシロ. 〔但し, ヘラオ モダカは寒冷	+3~+7 (ノ ビエ1Lまで). ホタルイ・ヘラ オモダカ・ウリ カワ・ヒルムシ ロ: 発生始まで. -3~+7 (ノ ビエ1Lまで). 〔但し, 暖地普 通期はノビエ 1.5Lまで.〕 ホタルイ・ヘラ オモダカ・ヒル ムシロ: 発生始	g/a 300 ~ 400	砂壌土~ 埴土(2 cm/日以 下). 〔但し, 温暖地 西部の 早期は 壌土~ 埴土(2 cm/日 以下).〕	1) 泥炭質土壌ではウ リカワに対する効果 が低下することがあ る. 2) 砂壌土で著しい高 温条件の時は, クロ ロシスの発生が著し いので注意する.

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 1 2 移植前後土壌処理 (つづき)	8) SL-49 粒 (つづき)			地のみ、ミズ ガヤツリは暖 地の普通期を 除く。ヒルム シロは温暖地 東部と暖地の 早期を除く。	〔但し、温暖地 東部のホタル イは移植後処 理のみ、2 L まで。〕 ウリカワ：2 L まで。 ミズガヤツリ： 発生始まで(寒 冷地は1 L ま で、温暖地西 部は2 Lまで)。			
	9) YH-411 ①粒	土 壌 処 理	寒地。	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ヘラオモダ カ。	-3～+7 (ノ ビエ1 Lまで)。 ホタルイ・ヘラ オモダカ：発生 始まで。	g/a 300～ 400	壤土～植 土(2 cm /日以下)。	1) 処理後の深水はさ ける。
			寒冷地。		+5～+7 (ノ ビエ1 Lまで)。 ホタルイ・ヘラ オモダカ：発生 始まで。			
			温暖地東部 の普通期。	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ。	-3～+5 (ノ ビエ1 Lまで)。 ホタルイ：発生 始まで。			
			温暖地西部 の普通期。	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ミズガヤツ リ。	-3～+5 (ノ ビエ1 Lまで)。 ホタルイ・ミズ ガヤツリ：発生 始まで。			
			暖地の普通 期。	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ミズガヤツ リ。	+3～+4 (ノ ビエ1 Lまで)。 ホタルイ・ミズ ガヤツリ：発生 始まで。		砂壤土～ 植土(1 cm/日以 下)。	
Ⅱ 3 移植後土壌処理	1) SB-77① 粒	土 壌 処 理	暖地の普通 期。	一年生雑草・マ ツバイ・ウリカ ワ。	+3～+10 (ノ ビエ2 Lまで)。 ウリカワ：2 L まで。	g/a 300	砂壤土～ 植土(2 cm/日以 下)。	1) SB-77 に準ずる。
	2) DPX-84 ・A粒	土 壌 処 理	寒地。	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ヘラオモダ カ・ウリカワ。	+5～+15 (ノ ビエ1.5 Lま で)。 ホタルイ・ヘラ	g/a 300	植壤土～ 植土(1.5 cm/日以 下)。	

区分	薬剤名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ ― 3 移植後土壌処理 (つづき)	2) DPX-84 ・A粒 (つづき)				オモダカ：2L まで。 ウリカワ：発生 始まで。			
			寒冷地。	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ヘラオモダ カ・ミズガヤツ リ。	+5～+10 (ノ ビエ 1.5 L ま で)。 ホタルイ・ヘラ オモダカ・ミズ ガヤツリ：2L まで。		壤土～埴 土 (2cm /日以下)。	
			温暖地東部 の普通期。	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ウリカワ・ ミズガヤツリ。	+5～+7 (ノ ビエ 1.5 L ま で)。 ホタルイ・ウリ カワ・ミズガヤ ツリ：2Lまで。			
			温暖地西部 の普通期。	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ミズガヤツ リ。	+5～+7 (ノ ビエ 1.5 L ま で)。 ホタルイ・ミズ ガヤツリ：2L まで。			
			暖地の普通 期。	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ウリカワ	+5～+7 (ノ ビエ 1.5 L ま で)。 ホタルイ：発生 始。 ウリカワ：2L まで。		埴壤土～ 埴土 (1 cm/日以 下)。	
	3) FS-356 粒	土 壌 処 理	寒地。	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ヘラオモダ カ・ウリカワ・ ヒルムシロ。	+3～+15 (ノ ビエ <u>2L</u> まで)。 ホタルイ・ヘラ オモダカ・ウリ カワ：2Lまで。 ヒルムシロ：発 生期。	g/a 300～ <u>400</u>	砂壤土～ 埴土 (2 cm/日以 下)。 〔但し、 砂壤土 は (1.5 cm/日 以下)。〕	
			寒冷地。	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ヘラオモダ カ・ウリカワ・ ミズガヤツリ・ ヒルムシロ。	+3～+15 (ノ ビエ <u>2.5 L</u> ま で)。 ホタルイ・ヘラ オモダカ・ウリ カワ：3Lまで。		埴土～埴 土 (2cm /日以下)。 〔但し、 暖地は (1cm	

区分	薬剤名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
II 3 移植後土壌処理 (ぬき)	3) FS-356 粒 (つづき)				ミズガヤツリ： 2 Lまで。 ヒルムシロ：発 生期。		〔ノ日以 下〕	
			温暖地東部 の早期・普 通期。	一年生雑草・マ ツバイ・ウリカ ワ。	+3～+15 (ノ ビエ 2.5 L ま で)。 ウリカワ：3 L まで。	g/a 300		
			温暖地西部 以西の普通 期。	一年生雑草・マ ツバイ・ウリカ ワ・ヒルムシロ 〔但し、ヒルム シロは温暖地 西部のみ。〕	+3～+12 (ノ ビエ 3 L まで)。 ウリカワ：2 L まで。 ヒルムシロ：発 生期。	g/a 300～ 400		
	4) MM-3 粒 (オーザ粒)	土 壌 処 理	全域の早期 ・普通期。	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ヘラオモダ カ・ウリカワ・ ミズガヤツリ。 〔但し、ヘラオ モダカは寒地 と寒冷地のみ、 ウリカワは温 暖地西部以西 の早期を除く、 ミズガヤツリ は寒地と暖地 の普通期を除 く。〕	+3～+10 (ノ ビエ 1.5 L ま で)。 〔但し、暖地の 早期は+3～ +10 (ノビエ 1 L まで)〕 ホタルイ・ヘラ オモダカ・ウリ カワ・ミズガヤ ツリ：発生始～ 2 L。	g/a 300～ 400	壤土～埴 土 (1.5 cm/日以 下)。 〔但し、 暖地早 期は砂 埴土 (1 cm/日 以下) を含む〕	1) プタクロールに準 ずる。
	5) MT・CG ①粒 (ヨートル粒)	土 壌 処 理	全域の普通 期・早期。	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ヘラオモダ カ・ウリカワ・ ミズガヤツリ。 〔但し、ヘラオ モダカは寒地 ・寒冷地・温 暖地東部のみ、 ミズガヤツリ は温暖地東部 のみ。ウリカ ワは温暖地以 西の早期を除 く。〕	+3～+10 (ノ ビエ 1.5 L ま で)。 〔但し、温暖地 西部以西の普 通期は+3～ +7 (ノビエ 1.5 L まで)。 暖地の早期は +3～+8 (ノ ビエ 1.5 L ま で)〕 ホタルイ・ヘラ オモダカ・ウリ カワ：2 L まで。 ミズガヤツリ： 発生始まで。	g/a 300～ 400 〔但し、 暖地早 期は 300。〕	壤土～埴 土 (2 cm /日以下)。 〔但し、 寒冷地 ・温暖 地西部 の普通 期は砂 埴土 (1 cm/日 以下)、 温暖地 西部の 早期は 埴土～ 埴土 (1	

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使 用 上 の 注 意
Ⅱ Ⅰ 3 移 植 後 土 壌 処 理 (つ づ き)	5) MT・CG ①粒 (つづき)				〔但し、温暖地 西部以西のホ タルイは発生 始まで。〕		cm/日 以下), 暖地の 早期は 砂壌土 ～埴土 (1.5 cm/日 以下).	
	6) NTN－ 801 粒 (ヒノクロア 粒)	土 壌 処 理	寒冷地以西 の普通期.	ノビエ・一年生 雑草・カヤツリ グサ・マツバイ.	+ 3 ～ + 14 (ノ ビエ 3.5 L ま で). 〔但し、寒冷地 ・温暖地東部 では～+10ノ ビエ 1.5 L ま で。〕	g/a 300 ～ 400 〔但し、 寒冷地 は 300 (のみ.)〕	埴土～埴 土 (2cm /日以下). 〔但し、 温暖地 西部は 砂壌土 ～埴土 (1cm /日以 下), 暖 地は埴 土～埴 土 (1 cm/日 以下).〕	
	7) NTN－ 804 粒	土 壌 処 理	寒冷地以西 の普通期.	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ヘラオモダ カ・ウリカワ・ ミズガヤツリ. 〔但し、寒冷地 のミズガヤツ リ, 温暖地以 西のヘラオモ ダカ, 温暖地 東部・暖地の ホタルイを除 く。〕	+ 5 ～ + 15 (ノ ビエ 3L まで). 〔但し、寒冷地 2 L まで, 温 暖地東部 2.5 L まで, 暖地 + 8 (1.5L) ま で。 ヘラオモダカ: 3 L まで. ウリカワ: 2 L まで (寒冷地 は 3 L まで). ミズガヤツリ: 1 L まで.	g/a 300 ～ 400 〔但し、 寒冷地 ・暖地 は 300 (のみ.)〕	砂壌土～ 埴土 (2 cm/日以 下). 〔但し、 温暖地 東部は 埴土～ 埴土 (2 cm/日 以下), 温暖地 西部の 砂壌土 は (1 cm/日 以下), 暖地は 埴土～ 埴土 (1 cm/日 以下).〕	
	8) S－471 粒		寒地・寒冷 地・温暖地	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル	+ 3 ～ + 10 (ノ ビエ 1.5 L ま	g/a 300 ～	砂壌土～ 埴土 (2	1) 深水処理はさける.

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ Ⅰ 3 移植後土壌処理 (つづき)	8) S-471 粒 (つづき)	土 壌 処 理	の普通期, 温暖地東部 の早期.	イ・ヘラオモダ カ・ウリカワ・ ミズガヤツリ・ クログワイ. 〔但し, ヘラオ モダカは温暖 地西部を除く. ミズガヤツリ は寒地を除く. ウリカワは温 暖地の普通期 は除く. クロ グワイは寒冷 地と温暖地東 部の普通期の み.〕	で). ホタルイ・ヘラ オモダカ・ウリ カワ・ミズガヤ ツリ・クログワ イ:発生始まで. 〔但し, 温暖地 は+3~+7 (ノビエ1Lま で).〕	400 〔但し, 寒地・ 寒冷地 は300 のみ.〕	cm/日以下). 〔但し, 温暖地 西部は 砂壤土 を除く.〕	
	9) S-473 粒	土 壌 処 理	温暖地西部 以西の普通 期, 温暖地 東部の早期.	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ウリカワ・ ミズガヤツリ・ ヒルムシロ. 〔但し, 暖地は ヒルムシロ, 温暖地東部は ミズガヤツリ ・ヒルムシロ を除く.〕	+3~+9 (ノ ビエ1.5Lま で). ホタルイ・ウリ カワ・ミズガヤ ツリ:2Lまで. ヒルムシロ:発 生期.	g/a 300~ 400 〔但し, 暖地は 300.〕	壤土~植 土(2cm /日以下). 〔但し, 暖地は 砂壤土 ~植土 (1.5 cm/日 以下).〕	
	10) SB-77- ②粒 (シルベノン 粒)	土 壌 処 理	全域の普通 期, 温暖地 の早期.	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ヘラオモダ カ・ウリカワ・ ミズガヤツリ・ ヒルムシロ. 〔但し, ホタル イとミズガヤ ツリは寒地を 除く, ヘラオ モダカは寒冷 地以北のみ, ヒルムシロは 寒地と温暖地 西部以西の普 通期のみ.〕	+3~+10 (ノ ビエ2Lまで). 〔但し, 寒地は ノビエ1.5L まで, 温暖地 西部の早期は +3~+12.〕 ホタルイ・ヘラ オモダカ・ウリ カワ・ミズガヤ ツリ:2Lまで. ヒルムシロ:発 生期.	g/a 300~ 400 〔但し, 400は 寒地と 温暖地 西部の 早期の み.〕	砂壤土~ 植土(2 cm/日以 下). 〔但し, 温暖地 西部の 早期は 壤土~ 植土(1 cm/日 以下).〕	1) 泥炭質土壌ではウ リカワに対する効果 が低下することがあ る. 2) 砂壤土で著しい高 温条件の時はクロロ シスの発生が著しい ので注意する.
	11) SL-493 粒	土 壌 処 理	全域の早期 ・普通期.	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ヘラオモダ カ・ウリカワ・ ミズガヤツリ・	+1~+10 (ノ ビエ2Lまで). 〔但し, 寒地・ 寒冷地・暖地 の早期はノビ	g/a 300~ 400 〔但し, 砂壤土	砂壤土~ 植土(2 cm/日以 下). 〔但し,〕	

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 3 移植後土壌処理 (つづき)	11) SL-493 粒 (つづき)	土 壌 処 理		ヒルムシロ。 〔但し、ヘラオ モダカは温暖 地東部以北の み、ミズガヤ ツリは温暖地 以西、ヒルム シロは寒冷地 と暖地の早期 を除く。〕	エ1.5 Lまで。 ホタルイ・ヘラ オモダカ・ミズ ガヤツリ：2 L まで。 〔但し、暖地早 期のホタルイ は1 Lまで。〕 ウリカワ：3 L まで。 ヒルムシロ：発 生期。	は 300 〔のみ。〕	暖地の 早期は 1 cm/ 日以下、 温暖地 西部の 早期は 壤土～ 埴土(1 cm/日 以下)。	
	12) SL-495 粒	土 壌 処 理	全域の普通 期、温暖地 東部と暖地 の早期。	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ヘラオモダ カ・ウリカワ・ ミズガヤツリ・ ヒルムシロ。 〔但し、ヘラオ モダカは寒地 ・寒冷地のみ、 ミズガヤツリ は温暖地西部 の普通期と暖 地早期のみ、 ヒルムシロは 温暖地西部の 普通期のみ。〕	+ 3～+10 (ノ ビエ寒地・寒 冷地は1 Lま で、温暖地以 西は1.5 Lま で)。 ヘラオモダカ・ ホタルイ・ウリ カワ・ミズガヤ ツリ：寒地・寒 冷地は1 Lま で、温暖地以 西は2 Lまで、 ヒルムシロ：発 生期。	g/a 300 〔但し、 温暖地 東部は 300～ 400。〕	壤土～埴 土(2 cm /日以下)。 〔但し、 温暖地 西部は 砂壤土 (1 cm /日以下) を含む。 また、 暖地の 早期は 埴壤土 ～埴土 (1 cm /日以下)、普 通期は 壤土～ 埴土(1 cm/日 以下)。	
	13) SR-811 粒	土 壌 処 理	寒地。	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ヘラオモダ カ・ウリカワ。	+ 3～+10 (ノ ビエ1 Lまで)。 ホタルイ・ヘラ オモダカ・ウリ カワ：発生始ま で。	g/a 300	壤土～埴 土(2 cm /日以下)。	
			暖地の普通 期。	一年生雑草・マ ツバイ・ウリカ ワ。	+ 3～+ 7 (ノ ビエ2 Lまで)。 ウリカワ：2 L まで。	g/a 300～ 400	壤土～埴 土(1 cm /日以下)。	

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 4 茎葉兼 土壌処 理	1) NTN－ 805 粒	茎葉・ 土壌	寒冷地、 <u>温暖地東部の 早期・普通 期、温暖地 西部の普通 期。</u>	一年生雑草・マ ツバイ。	+7～+15 (ノ ビエ 2 L まで)。	g/a 300 ～ 400	<u>壤土～埴 土 (2 cm /日以下)。</u>	1) シメトリン混合剤 の使用上の注意を守 る。
	2) NTN－ 806 粒	茎葉・ 土壌処 理	温暖地の普 通期・ <u>早期</u> 。	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ウリカワ・ ヒルムシロ。	+15～+20 (ノ ビエ 3.5 L ま で)。 ホタルイ：3 L まで。 ウリカワ：5 L まで。 ヒルムシロ：発 生盛～増殖初 期。 〔但し、温暖地〕 西部早期はホ タルイ・ウリ カワは 2 L ま で。〕	g/a 300 ～ 400 〔但し、 400 は 温暖地 西部の み。〕	砂壤土～ 埴土 (1 cm/日以 下)。 〔但し、 温暖地 西部の 早期は 砂壤土 を除く。〕	1) シメトリン混合剤 の使用上の注意を守 る。 2) 低温時は、薬害発 生の危険性があるの で使用はさける。
	3) SL－494 粒 (パコム粒)	茎葉・ 土壌処 理	寒地・寒冷 地・温暖地 東部の早期 ・普通期。	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ヘラオモダ カ・ウリカワ・ ミズガヤツリ・ ヒルムシロ。 〔但し、ミズガ ヤツリは寒地 を除く、ヒル ムシロは温暖 地東部を除く。〕	+7～+12 (ノ ビエ 2.5 L ま で)。 〔但し、寒地は ノビエ 1.5 L まで、寒冷地 はノビエ 2.0 L まで。〕 ホタルイ・ヘラ オモダカ・ミズ ガヤツリ：2 L まで。 ウリカワ：4 L まで。 ヒルムシロ：発 生期。	g/a 300 ～ 400 〔但し、 砂壤土 は 300 のみ。〕	砂壤土～ 埴土 (2 cm/日以 下)。	1) ミズガヤツリに対 し遅い処理では 400 g/a 散布する。
			温暖地西部 以西の早期 ・普通期。	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ウリカワ・ ミズガヤツリ・ ヒルムシロ。 〔但し、ヒルム シロは暖地の 早期を除く。〕	+5～+12 (ノ ビエ 2.0 L ま で)。 〔但し、暖地の 普通期のみ 2.5 L まで。〕 ホタルイ・ヘラ オモダカ・ミズ ガヤツリ：2 L まで。 ウリカワ：4 L		砂壤土～ 埴土 (2 cm/日以 下)。 〔但し、 温暖地 西部の 早期は 埴土～ 埴土 (1 cm/日	

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ-4 茎葉兼土壌処理(つづき)	3) SL-494 粒 (つづき)	茎葉・土壌処理			まで。 ヒルムシロ：発 生期。 〔但し、暖地早 期のホタルイ ・ミズガヤツ リは発生始ま で。〕		以下)、 暖地の 早期は 埴壌土 ～埴土 (1 cm /日以下)	
Ⅱ-5 適用時期拡大	1) B-3015 ・S粒 (サターンS 粒)	茎葉・土壌処理	全域の早期・普通期。	一年生雑草・マツバイ。	田植前後土壌処理した場合、 +15～+25 (ノビエ2Lまで)。	g/a 300～400 〔但し、寒地は300のみ。〕	砂壌土～埴土(極端な漏水田は除く)	1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 2) シメトリン混合剤使用上の注意を守る。
	2) B-3015・S・BAS (酸)粒 (エスグラン粒)	茎葉・土壌処理	寒地。 寒冷地。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ <u>エゾノサヤスカグサ</u> 。 一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ミズガヤツリ。	田植前後土壌処理した場合、 +20～+25 (ノビエ2.5 Lまで)。 〔但し、寒地はノビエ2 Lまで。〕 ホタルイ：発生始～3 L。 ヘラオモダカ：発生始～4 L。 ミズガヤツリ：発生始～5 L。 エゾノサヤスカグサ：～1 Lまで。	g/a 300～400	埴土～埴土(2cm/日以下)。	1) 前処理剤との組み合わせで使用する。
	3) B-3015・SM-③ 粒 (クミリードSM粒)	茎葉・土壌処理	寒地。 寒冷地、温暖地東部の早期・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ。 一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・オモダカ・ミズガヤツリ・クログワイ。 〔但し、ヘラオモダカは寒冷地のみ。〕	田植前後土壌処理した場合、 寒地：+20～+30(ノビエ2.5 L)。 寒冷地・温暖地東部：+20～+30(ノビエ3 L)。 温暖地西部以西：+20～+30(ノビエ3 L)。 〔但し、寒冷地以北はイネ5 L期以降。〕 ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリ	g/a 300～400 〔但し、寒地は300。〕	埴土～埴土(2cm/日以下)。 砂 埴 土 (1 cm/日以下)。	1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 2) シメトリン混合剤使用上の注意を守る。 3) 低温時は、薬害発生の危険性があるので使用はさける。 4) クログワイ防除はクログワイに有効な前処理剤との組み合わせで使用する。

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 5 適用時期拡大 (つづき)	3) B-3015・ SM-③ 粒 (つづき)		温暖地西部 以西の普通 期.	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ウリカワ・ オモダカ・クロ グワイ. 〔但し、クログ ワイは温暖地 西部のみ.〕	カワ・ミズガヤ ツリ：発生始～ 4 L. 〔但し、温暖地 西部以西のウ リカワは発生 始～5 L.〕 オモダカ：発生 始～2 L (温 暖地西部以西 のオモダカは 発生始～矢じ り葉初期). クログワイ：発 生始～草丈5 cm.			
	4) HOK-05 ・M粒 (セスロン粒)	茎 葉 ・ 土 壌 処 理	寒地.	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ヘラオモダ カ.	田植前後土壌処 理した場合、 +20～+25 (ノ ビエ 2.5 L ま で).	g/a 300 ～ 400	砂壤土～ 埴土 (2 cm/日以 下). 〔但し、 暖地普 通期は 砂壤土 ～埴土 (1 cm /日以 下).〕	1) 前処理剤との組み 合わせで使用する. 2) シメトリン混合剤 の使用上の注意をま もる. 3) 低温時は薬害発生 の危険性があるので 使用はさける.
			寒冷地.	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ヘラオモダ カ・ウリカワ.	〔但し、寒地は ノビエ 2 L ま で、寒冷地以 北はイネ 5 L 以降.〕			
			温暖地以西 の普通期, 温暖地西部 以西の早期.	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ウリカワ・ ミズガヤツリ・ ヒルムシロ・セ リ. 〔但し、ミズガ ヤツリは温暖 地西部以西の 早期、セリは 温暖地西部の 普通期のみ.〕	ホタルイ：2 L まで. ヘラオモダカ： 3 L まで. ウリカワ：4 L まで. ミズガヤツリ： 5 L まで. ヒルムシロ：増 殖初期. セリ：増殖初期 まで. 〔但し、寒冷地 のミズガヤツ リは 3 L まで.〕			
	5) HW-52・ SM粒	茎 葉 ・ 土 壌 処 理	全域の普通 期.	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ヘラオモダ カ・ウリカワ. 〔但し、ホタル イは温暖地東 部・暖地を除 く.ヘラオモ	田植前後土壌処 理した場合、 +20～+25 (ノ ビエ 2.5 L ま で). 〔但し、寒地は ノビエ 2 L ま で、寒冷地以	g/a 300 ～ 400 〔但し、 寒地は 300 の み.〕	砂壤土～ 埴土 (2 cm/日以 下). 〔但し、 寒地と 温暖地 の埴土	1) 前処理剤との組み 合わせで使用する. 2) シメトリン混合剤 の使用上の注意をま もる. 3) 低温時は薬害発生 の危険性があるので 使用はさける.

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使 用 上 の 注 意
II I 5 適用時期拡大 (つづき)	5) HW-52・ SM粒 (つづき)			〔ダカは寒地のみ。〕	〔北はイネ5L期以降。〕 ホタルイ・ヘラオモダカ：2Lまで(寒地・寒冷地のウリカワは4Lまで)。		〔～埴土(2cm/日以下)、温暖地西部は砂埴土(1cm/日以下)。〕 〔～埴土(1cm/日以下)。〕	
	6) KH-199 粒 (モゲブロン粒)	茎葉・土壌処理	寒地。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ <u>ヒルムシロ</u> 。	田植前後土壌処理した場合、 寒地：+20～+30。 寒冷地・暖地：+20～+25。 温暖地：+15～+20。	g/a 300～400 〔但し、寒地と暖地は300のみ。〕	砂埴土～埴土(2cm/日以下)。	1) 前処理剤との組み合わせで使用する場合、 2) シメトリン混合剤の使用上の注意を守る。 3) 低温時は、薬害発生の危険性があるので使用はさける。
			寒冷地以西の早期・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ <u>ヘラオモダカ</u> ・ <u>ヒルムシロ</u> ・ウキクサ・ <u>表層剥離</u> ・ <u>アオミドロ</u> 〔但し、ホタルイは温暖地西部の早期と暖地の普通期を除く。ヘラオモダカは寒地と寒冷地のみ。ヒルムシロは寒冷地・温暖地東部と暖地の早期を除く。ウキクサは温暖地西部のみ。アオミドロ・表層剥離は寒冷地のみ。〕	〔但し、ノビエ〕 1.5Lまで、 寒冷地以北はイネ5L期以降。 ホタルイ：発生始～5L。 ヘラオモダカ：発生始～4L。 ウリカワ：発生盛～5L。 ヒルムシロ：発生盛～増殖初期。		〔但し、寒地・温暖地東部・暖地は砂埴土を除く。〕	
	7) KUH-812粒	茎葉・土壌処理	寒地・ <u>寒冷地</u> ・ <u>温暖地東部の早期</u> 。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ。 〔但し、ホタルイ・ヘラオモ〕	田植前後土壌処理した場合 +20～+25(ノビエ2Lまで)。 〔但し、寒冷地はノビエ2.5〕	g/a 300	砂埴土～埴土(2cm/日以下)。 〔但し、寒冷地〕	1) 前処理剤との組み合わせで使用する場合、 2) シメトリン混合剤の使用上の注意をまもる。 3) 低温時は薬害発生

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ ― 5 適用時期拡大 (つづき)	7) KUH-812粒 (つづき)			〔ダカは温暖地 東部を除く。〕	〔Lまで、寒冷 地以北はイネ 〔5L期以降。〕 ホタルイ・ヘラ オモダカ・ウリ カワ：2Lまで。 〔但し、寒冷地 ではホタルイ ・ヘラオモダ カ・ウリカワ ：3Lまで。〕		と温暖 地東部 は壇土 (2cm /日以 下)。	の危険性があるので 使用はさける。
	8) MCP・ BAS(Na) 液	茎葉 処理 ：落 水散 布	寒地。	一年生非イネ科 雑草・マツバイ ・ホタルイ・ヘ ラオモダカ・ウ リカワ。	MCP 散布時期 に準ずる。 〔但し、寒地は〕 幼穂形成始期 寒地：+40 ～+48。暖地 の早期：+40 ～+50。暖地 の普通期：+ 〔15～+26。〕	mL/a 30～50	全 土 壤	1) 前処理剤との組み 合わせで使用する。 2) 水稲になるべくか からないようにする 3) 処理後の灌水は、 48～72時間経過後に 行なう。 4) 処理後2日以内に 降雨が予想される場 合は、使用をさしひ かえる。 5) クログワイ防除は クログワイに有効な 前処理剤との組み合 わせで使用する。
			寒冷地。	一年生非イネ科 雑草・マツバイ ・ホタルイ・ヘ ラオモダカ・ウ リカワ・ミズガ ヤツリ・クログ ワイ・コウキヤ ガラ・セリ。	一年生非イネ科 雑草：生育期。 ホタルイ：発生 揃～4L。 ヘラオモダカ： 発生揃～5L。 ウリカワ：塊茎 形成前。 オモダカ：発生 盛～前期。 ミズガヤツリ： 発生盛～前期。 クログワイ・セ リ：増殖盛期 (寒冷地のク ログワイは草 丈30cmまで)。 コウキヤガラ： 40～60cm(温 暖地以西普通 期のコウキヤ ガラ対象は+ 30～+40)。			
			温暖地の早 期・普通期。	一年生非イネ科 雑草・マツバイ ・ホタルイ・ヘ ラオモダカ・ウ リカワ・ミズガ ヤツリ・クログ ワイ・コウキヤ ガラ・セリ。 〔但し、ヘラオ モダカ・オモ ダカ・クログ ワイ・コウキ ヤガラ・セリ は温暖地西部 の早期を除く。〕				
			暖地の早期 ・普通期。	一年生非イネ科 雑草・マツバイ ・ホタルイ・ヘ ラオモダカ・ウ リカワ・ミズガ ヤツリ・クログ ワイ・コウキヤ ガラ・セリ。				

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 5 適用 時期 拡大 (き)	8) MCP・BAS(Na)液 (つづき)			〔但し、ヘラオモダカ・クログワイは普通期のみ、セリは早期のみ。〕				
	9) MCP・BAS①(Na)粒	茎葉処理： 浅水もしくは落水散布	寒地。	一年生非イネ科雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ヘラオモダカ。	田植前後土壌処理した場合、 +30～+45。 〔但し、温暖地および暖地早期：+20～+30。 暖地普通期：+15～+30。〕	g/a 300～400	砂壤土～埴土(1.5cm/日以下)。 〔但し、暖地早期は埴土～埴土。〕	1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 2) 落水もしくは浅水で使用する。 3) 処理後の灌水は、48～72時間経過後に行なう。 4) 処理後2日以内に降雨が予想される場合は、使用をさしひかえる。
			寒冷地。	一年生非イネ科雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤツリ。	一年生非イネ科雑草：生育期。 ホタルイ：発生揃～4L。			
			温暖地以西の普通期、温暖地東部および暖地の早期。	一年生非イネ科雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ。	ヘラオモダカ・ミズガヤツリ：発生揃～6L。 ウリカワ：増殖開始前。			
	10) NTN-806粒	茎葉・土壌処理	全域の早期・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ヒルムシロ。 〔但し、ヘラオモダカは寒地と寒冷地のみ、ヒルムシロは寒冷地と暖地を除く。〕	田植前後土壌処理した場合、 +20～+25(ノビエ3.5Lまで)。 〔但し、寒地は+20～+30(ノビエ2.5Lまで)、寒冷地はノビエ2.5Lまで、暖地はノビエ3Lまで、寒冷地以北はイネ5L期以降。〕 ホタルイ：3Lまで(寒地・寒冷地は2Lまで)。 ヘラオモダカ：3Lまで。 ウリカワ：5Lまで(寒地は3Lまで、寒冷地は4Lまで)。	g/a 300～400	砂壤土～埴土(2cm/日以下)。 〔但し、寒冷地は埴土～埴土(2cm/日以下)、温暖地西部早期は埴土～埴土(1cm/日以下)、暖地は埴土～埴土(1cm/日以下)。〕	1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 2) シメトリン混合剤の使用上の注意をまもる。 3) 低温時は薬害発生の危険性があるので使用はさける。

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 5	10) NTN-806粒 (つづき)				ヒルムシロ：発生盛～増殖初期。			
適用時期拡大(つづき)	11) SL-49粒 (ノバイサー粒)	土壌処理	寒地。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ヒルムシロ。	田植前後土壌処理した場合、+10～+15(ノビエ1Lまで)。 〔但し、暖地は〕1.5Lまで。	g/a 250～300	砂壌土～埴土(2cm/日以下)。	1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 2) 泥炭質土壌では、ウリカワに対する効果が低下することがある。
			寒冷地。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤツリ。	ヘラオモダカ：発生始まで。 ホタルイ・ミズガヤツリ・オモダカ：2Lまで。			
			温暖地の早期・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・オモダカ・ヒルムシロ。 〔但し、オモダカは温暖地西部の普通期のみ。〕	〔但し、寒地・寒冷地のホタルイは発生始まで。〕 ウリカワ：3Lまで(寒地のウリカワは発生始まで)。 ヒルムシロ：発生期。			
			暖地の早期・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ。 〔但し、ホタルイ・ミズガヤツリは早期のみ。〕				
	12) TH-80粒 (クサノック粒)	茎葉・土壌処理	寒冷地以西の早期・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ヒルムシロ。 〔但し、ホタルイは温暖地東部を除く。ヘラオモダカは寒冷地のみ。ヒルムシロは温暖地西部の普通期のみ。〕	田植前後土壌処理した場合、+15～+25(ノビエ2.5Lまで)。 〔但し、寒冷地は+20～+25、イネ5L期以降。〕 ホタルイ：発生揃～2L。 ヘラオモダカ：発生揃～3L。 ウリカワ：発生揃～5L。	g/a 300～400	砂壌土～埴土(2cm/日以下)。 〔但し、暖地早期は1cm/日以下。〕	1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 2) シメトリン混合剤の使用上の注意をまもる。 3) 低温時は薬害発生の危険性があるので使用はさける。

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ ー 5 (つづき)	12) TH-80 粒 (つづき)				ヒルムシロ：発 生盛～増殖初 期。			
Ⅱ ー 6 ー 1 ク ロ グ ワ イ 対 象	1) BAS- 3510 粒 (バサグラン 粒)	茎 葉 処 理 ： 浅 水 も し く は 落 水 散 布	寒地。	一年生非イネ科 雑草・マツバイ ・ホタルイ・ヘ ラオモダカ・ウ リカワ。	田植前後土壌処 理した場合、 一年生非イネ科 雑草：生育期。 ホタルイ：発生 盛～花茎抽出 始期。	g/a 300 ～ 400 〔但し、 寒地は 400 ～ 600。〕	砂壤土～ 埴土(1.5 cm/日以 下)。 〔但し、 寒地は 埴土～ 埴土(2 cm/日 以下)〕	1) 前処理剤との組み 合わせで使用する。 2) 落水もしくは浅水 で使用する。 3) 処理後の溜水は48 ～72時間経過後に行 なう。 4) 処理後2日以内に 降雨が予想される場 合は、使用をさしひ かえる。 5) 寒地浅水処理は、 処理後3日間止水す る。 6) クログワイ防除は クログワイにも有効 な初期剤と組み合わ せて使用する。
			寒冷地以西 の普通期、 温暖地東部 ・暖地の早 期。	一年生非イネ科 雑草・マツバイ ・ホタルイ・ヘ ラオモダカ・ウ リカワ・オモダ カ・ミズガヤツ リ。 〔但し、オモダ カは暖地早期 を除く。ヘラ オモダカは温 暖地西部を除 く。〕	ウリカワ・ミズ ガヤツリ・ヘラ オモダカ：発生 盛～増殖初期 (温暖地以西 は発生盛～増 殖中期)。 オモダカ：発生 盛～発生前期 (温暖地西部 以西は発生盛 ～矢じり葉初 期)。			
			寒冷地・温 暖地東部。	クログワイ。	田植前後土壌処 理した場合、 寒冷地はクログ ワイ草丈10～ 15cm。 温暖地東部は+ 15～+30。 クログワイ：草 丈15cm以下。	g/a 300 ～ 400 〔但し、 温暖地 東部は 400 の み。〕	埴土～埴 土(2cm /日以下)。	
Ⅱ ー 6 ー 5 シ ズ イ 対 象	1) B-3015 S・BAS 粒 (エスグラン 粒)	茎 葉 処 理	寒冷地。	シズイ。	シズイ：草丈20 ～25cm(5～ 7L)。	g/a 300 ～ 400	埴土～埴 土(2cm /日以下)	
	2) TH-63 粒 (ワイダー粒)	茎 葉 処 理	寒冷地。	シズイ。	シズイ：草丈20 ～25cm(5～ 7L)。	g/a 300 ～ 400	砂壤土～ 埴土(2 cm/日以 下)。	
Ⅱ ー 6 ー 6	1) TH-63 粒 (ワイダー粒)	茎 葉 ・ 土 壌	寒地。	エゾノサヤスカ グサ。	田植前後土壌処 理した場合、 エゾノサヤスカ グサ：1～4L。	g/a 300 ～ 400	埴土～埴 土(2cm /日以下)	

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使 用 上 の 注 意
Ⅱ 6 6 エゾノサヤヌカグサ対象	2) SMX 粒 (バサグラン SM 粒)	茎葉・土壌処理	寒地.	エゾノサヤヌカグサ.	田植前後土壌処理した場合, エゾノサヤヌカグサ: 1~4 L.	g/a 300 ~ 400	壤土~埴土 (2 cm/日以下).	
	3) BAS-3510 水和 (バサグラン 水和)	茎葉もしくは落水散水布	寒地.	エゾノサヤヌカグサ.	田植前後土壌処理した場合, エゾノサヤヌカグサ: 1~4 L.	g/a 300 ~ 400	壤土~埴土 (2 cm/日以下).	
Ⅱ 6 7 クサネム対象	1) HOK-05A 粒 (グラキール 粒 2.5)	茎葉・土壌処理	温暖地東部.	クサネム.	田植前後土壌処理した場合, +20~+25 (クサネム 3 L まで).	g/a 300 ~ 400	壤土~埴土 (2 cm/日以下).	
Ⅲ 1 湛水直播	1) HW-52 粒	土壌処理	寒冷地. 温暖地以西.	ノビエ.	+3~ノビエ 2.5 L まで. 〔但し, 寒冷地・温暖地東部は 2 L まで.〕	g/a 300 ~ 400 〔但し, 温暖地東部は 300 のみ.〕	壤土~埴土 (1.5 cm/日以下). 〔但し, 寒冷地は埴土~埴土 (1.5 cm/日以下).〕	1) 他の草種に有効な薬剤と組み合わせて使用する.
	2) HW-52 ①粒	土壌処理	温暖地.	ノビエ.	+1~+5 (ノビエ 1 L まで).	g/a 300 ~ 400	壤土~埴土 (1.5 cm/日以下).	1) 他の草種に有効な薬剤と組み合わせて使用する.
	3) MY-93 粒	土壌処理	温暖地以西.	ノビエ.	+3~+7 (ノビエ 1.5 L まで).	g/a 300 ~ 400	壤土~埴土 (1 cm/日以下).	1) 他の草種に有効な薬剤と組み合わせて使用する.
	4) SL-49 粒 (ノバイザー 粒)	土壌処理	寒冷地.	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ミズガヤツリ.	+3~+7 (ノビエ発生始まで). ホタルイ: 発生前. ミズガヤツリ: 発生始.	g/a 300 ~ 400	壤土~埴土 (2 cm/日以下).	
			温暖地以西.	一年生雑草・マ	+0~+3	300 g/a		

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使 用 上 の 注 意
Ⅲ-1 湛水直播 (つづき)	4) SL-49 粒 (つづく)		西	ツバイ・ホタル イ・ウリカワ・ ヒルムシロ。 〔但し、ホタル ・ヒルムシロ は温暖地東部 を除く。〕	〔但し、温暖地〕 西部は <u>3</u> ～ +7 (ノビエ 1Lまで)。 ホタルイ：発生 始まで。 ウリカワ：2L まで。 ヒルムシロ：発 生始まで。			
Ⅲ-2 乾田直播	1) TH-80 粒 (クサノック 粒)	茎葉・土 壌処理	温暖地西部、	一年生雑草。	湛水 5～7 日後。	g/a 300～ 400	壤土～埴 土 (2 cm /日以下)。	1) シメトリン混合剤、 MCPB の使用上の 注意を守る。
Ⅳ 畦畔雑草	1) Hoe-866 液 (バスタ液)	茎葉 処理	寒冷地、温 暖地。	全草種。	雑草生育期。	m/a 50～ 100 〔但し、 寒冷地 は75～ 100。〕	全 土 壌	1) ノリ面散布はさけ る。 2) 流入・飛散等によ る水稲への薬害に注 意する。
	2) NC-412 HW水和	茎葉 処理	寒冷地以西。	全草種。 〔但し、チガヤ ・ススキを除 く。〕	雑草生育初期ま たは刈取り後、 草丈 5～10 cm。	m/a 150～ 300	全 土 壌	1) ノリ面散布はさけ る。 2) 流入・飛散等によ る水稲への薬害に注 意する。
	3) NHS-25 液	茎葉 処理	温暖地西部。	全草種。	雑草生育期、草 丈 10～30 cm。	m/a 1500～ 3000	壤土～埴 土。	1) ノリ面散布はさけ る。 2) 流入・飛散等によ る水稲への薬害に注 意する。
	4) NHS-60 水溶 (デゾレート A 水溶)	茎葉 処理	寒冷地以西。	全草種。	雑草生育期、草 丈 25～30 cm。	ml/a 750～ 1500 〔但し、 寒冷地 ・温暖 地は 1000～ 1500。〕	壤土～埴 土。	1) ノリ面散布はさけ る。 2) 流入・飛散等によ る水稲への薬害に注 意する。
Ⅵ 体系是正	1) FSB 粒	茎葉土 壌処理	全域の普通 期。	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ヘラオモダ カ・ウリカワ・	+5～+12 (ノ ビエ 2.5 L ま で)。 〔但し、寒地の〕	g/a 300～ 400	壤土～埴 土 (2 cm /日以下)。 温暖地西	1) ホタルイ・ミズガ ヤツリ優占圃場では 400 g/a を処理する。

区分	薬剤名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
VI 体 系 是 正 (つづき)	1) <u>FSB粒</u> (つづき)			ヒルムシロ・ミズガヤツリ。 〔但し、ホタルイは暖地、ヘラオモダカは温暖地以西、ミズガヤツリは寒地、ヒルムシロは温暖地東部・暖地をそれぞれ除く。〕	みは+7～+15(ノビエ2Lまで)。 ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤツリ：2Lまで。 ヒルムシロ：発生期。		部は砂壤土(1cm/日以下)を含む。 暖地は減水深(1cm/日以下)。	
	2) <u>NTN-831粒</u>	土壌処理	寒地。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ヒルムシロ。	+7～+15(ノビエ2Lまで)。 ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ：2Lまで。 ヒルムシロ：発生期。	g/a 300～400	壤土～埴土(2cm/日以下)。	
	3) <u>SL-496粒</u>	土壌処理	全域の普通期、温暖地東部と暖地の早期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ヒルムシロ。 〔但し、ヘラオモダカは温暖地西部以西、ミズガヤツリは温暖地東部以北と暖地普通期、ヒルムシロは温暖地西部以西をそれぞれ除く。〕	+3～+10(ノビエ2Lまで)。 〔但し、寒地は〕1Lまで。 ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤツリ：2Lまで。 〔但し、寒地は〕発生始まで。 ヒルムシロ：発生期。	g/a 300～400	壤土～埴土(2cm/日以下)。 〔但し、暖地普通期は(1.5cm/日以下)。〕	1) 泥炭質土壌ではウリカワに対する効果が低下することがある。
	4) <u>SL-496①粒</u> (ワンオール6粒)	土壌処理	全域の普通期、温暖地東部と暖地の早期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヒルムシロ。 〔但し、ヘラオモダカは温暖地西部以西、ミズガヤツリは温暖地東部以北と暖地普通期、ヒルムシロは温暖地西部以西をそれぞれ除く。〕	+3～+10(ノビエ2Lまで)。 〔但し、寒地は〕1Lまで。 ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ：2Lまで。 〔但し、寒地は〕発生始まで。 ミズガヤツリ：2Lまで(温暖地西部は発生始まで)。 ヒルムシロ：発生期。	g/a 300～400	壤土～埴土(2cm/日以下)。 〔但し、暖地普通期は(1.5cm/日以下)。〕	1) 泥炭質土壌ではウリカワに対する効果が低下することがある。

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
VI 体 系 是 正 (つづき)	4) SL-496 ①粒 (つづき)			西部以西をそれぞれ除く。	生期。			
	5) CG・SW ①粒 (クサホープ粒)	土 壌 処 理	全域の普通 期, 温暖地 東部の早期。	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ヘラオモダ カ・ウリカワ・ ミズガヤツリ・ ヒルムシロ。 〔但し, ヘラオ モダカは寒地 ・寒冷地・温 暖地東部のみ ヒルムシロは 普通期のみ。〕	+1～+10 (ノ ビエ 1.5 L ま で)。 〔但し, 寒地は +7～ノビエ 1 L まで, 温 暖地西部は+ 7～ノビエ 1.5 L まで, 暖地 は+5～ノビ エ 1.5 L まで。〕 ホタルイ・ヘラ オモダカ・ミズ ガヤツリ: 発生 始まで。 ウリカワ: 2 L まで。	g/a 300～ 400	砂壤土～ 埴土 (2 cm/日以下)。 〔但し, 寒地お よび温 暖地は 埴土～ 埴土の み。〕	1) CG・SW粒剤に準 ずる。 2) 泥炭質土壌ではウ リカワに対する効果 が低下することがあ る。
	6) MT・CG ①粒 (ヨートル粒)	土 壌 処 理	寒地～温暖 地西部の普 通期, 温暖 地東部の早 期。	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ヘラオモダ カ・ウリカワ・ ミズガヤツリ。 〔但し, ミズガ ヤツリは温暖 地東部のみ。 ウリカワは温 暖地東部の早 期および温暖 地西部を除く。〕	+3～+10 (ノ ビエ 1.5 L ま で)。 ホタルイ・ヘラ オモダカ・ウリ カワ: 2 L まで。 ミズガヤツリ: 発生始まで。	g/a 300～ 400	埴土～埴 土 (2 cm /日以下)。	
	7) SB-77 粒 (シルベノン 粒)	土 壌 処 理	全域の普通 期, 温暖地 の早期。	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ヘラオモダ カ・ウリカワ・ ミズガヤツリ・ ヒルムシロ。 〔但し, ホタル イとミズガヤ ツリは寒地を 除く。ヘラオ モダカは寒冷 地以北のみ。 ヒルムシロは 寒地と温暖地 西部以西の普 通期のみ。〕	+3～+10 (ノ ビエ 2 L まで)。 〔但し, 寒地は ノビエ 1.5 L まで, 温暖地 西部の早期は +3～+12〕 ホタルイ・ヘラ オモダカ・ウリ カワ・ミズガヤ ツリ: 2 L まで。 ヒルムシロ: 発 生期まで。	g/a 300～ 400 〔但し, 400 は 寒地と 温暖地 西部の 早期の み。〕	砂壤土～ 埴土 (2 cm/日以下)。 〔但し, 温暖地 西部早 期は埴 土～埴 土 (1 cm/日 以下)〕	1) 泥炭質土壌ではウ リカワに対する効果 が低下することがあ る。 2) 砂壤土で, 著しい 高温条件の時はクロ ロシスの発生が著し いので注意する。

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使 用 上 の 注 意
VI 体 系 是 正 (つづき)	8), 9) MM-3 粒 (オーザ粒剤)	土 壌 処 理	全域の普通 期, 温暖地 東部の早期.	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ヘラオモダ カ・ウリカワ・ ミズガヤツリ. 〔但し, ヘラオ モダカは寒冷 地以北のみ, ミズガヤツリ は寒地を除く.〕	+3~+10 (ノ ビエ 1.5 L ま で). ホタルイ・ヘラ オモダカ・ウリ カワ・ミズガヤ ツリ: 発生始~ 2 L まで.	g/a 300~ 400	壤土~埴 土 (1.5 cm/日以 下).	1) ブタクロール粒剤 に準ずる. 2) <u>移植後15~20日の 中耕は除草効果を低 下させる.</u>
	10), 13) MS-256 粒 (クサカリン 粒剤25)	土 壌 処 理	寒冷地以西 の早期, 普 通期.	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ヘラオモダ カ・ウリカワ・ オモダカ・ミズ ガヤツリ・ヒル ムシロ. 〔但し, オモダ カは温暖地東 部のみ. ヘラ オモダカは寒 冷地と温暖地 東部のみ. ヒ ルムシロは温 暖地西部以西 の早期を除く.〕	+1~+10 (ノ ビエ 1.5 L ま で). ホタルイ・ヘラ オモダカ・ウリ カワ・オモダカ ・ミズガヤツリ : 発生始まで. 〔但し, 温暖地 東部のヘラオ モダカは 2 L まで, 暖地の ウリカワは発 生前~2 L.〕 ヒルムシロ: 発 生期.	g/a 300~ 400	砂壤土~ 埴土 (2 cm/日以 下). 〔但し, 寒冷地 は砂壤 土を除 く, 暖 地の早 期は砂 壤土~ 埴土 (1 cm/日 以下).〕	1) ブタクロールおよ びピラゾレート粒剤 に準ずる.
	11) MS - 358 粒 (クサカリン 粒剤35)	土 壌 処 理	全域の普通 期, 温暖地 東部の早期.	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ヘラオモダ カ・ウリカワ・ ミズガヤツリ・ ヒルムシロ. 〔但し, ヒルム シロは寒地と 暖地のみ.〕	寒地・寒冷地: +1~+10 (ノ ビエ 1.5 L ま で). 温暖地東部: + 3~+13 (ノ ビエ 2 L まで). 温暖地西部以西 : +1~+10 (ノ ビエ 2 L まで). ホタルイ・ヘラ オモダカ・ミズ ガヤツリ: 2 L まで. ウリカワ: 3 L まで. ヒルムシロ: 発 生期まで.	g/a 300~ 400 〔但し, 400 は 寒地の み.〕	砂壤土~ 埴土 (2 cm/日以 下). 〔但し, 寒地の 400 g /a 処 理は砂 壤土を 除く.〕	1) ブタクロール粒剤 に準ずる. 2) 泥炭質土壌ではウ リカワに対する効果 が低下することがあ る. 3) 砂壤土で, 著しい 高温条件の時はクロ ロシスの発生が著し いので注意する.
			暖地の早期.	一年生雑草・マ ツバイ・ホタル イ・ウリカワ.	+1~+7 (ノ ビエ 1 L まで). ホタルイ: 2 L まで.			

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
VI 体 系 是 正 (つづき)	11) MS-358 粒 (つづき)				ウリカワ：3 L まで。			
	12) SL-494 粒 (バコム粒剤)	茎葉・土壌処理	全域の早期・普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヒルムシロ。 〔但し、ヘラオモダカは寒冷地以北のみ。ミズガヤツリは寒地を除く。ヒルムシロは寒地と温暖地西部以西の普通期のみ。〕	+7～+12 (ノビエ 2.5 L まで)。 〔但し、寒地はノビエ 1.5 L まで。寒冷地と暖地の早期はノビエ 2 L まで。〕 ホタルイ・ヘラオモダカ・ミズガヤツリ：2 L まで。 〔但し、暖地早期のホタルイとミズガヤツリは発生始まで。〕 ウリカワ：4 L まで。 ヒルムシロ：発生期。	g/a 300～400 〔但し、砂壤土は 300 のみ。〕	砂壤土～埴土 (2 cm/日以下)。 〔但し、温暖地西部の早期は埴土～埴土 (1 cm/日以下)。 暖地の早期は埴土～埴土 (1 cm/日以下)〕	1) ミズガヤツリに対し、遅い処理では 400 g/a 散布する。

注：1) 薬剤名欄の下段に商品名〔() 内〕と登録後予定される商品名〔() 内 アンダーライン実線付〕を参考のために記載した。

2) アンダーライン実線は本年度拡大された部分、点線はその一部が拡大されたもの。

編 集 後 記

啓蟄……冬ごもりしていた虫が這いだしてくる頃だというのに、雪が舞いおち、氷河期に戻ったような寒い日が続く。このような寒気のためか、関東地方では梅の開花が2週間もおくれているという。3月に入っても未だ寒気が去らず、この異常気象に作物はどのようにして耐えているのであろうか。菜の花やキンセンカなどの花は開花しているものの、この寒さにふるえているようで、生育もあまりよいとはいえない。この異常寒波は、作物を栽培する者にとってはよい教訓となったであろうが、この経験を生かして作物の栽培計画に誤りのないように願いたい。品種の改良が進み、低温下で栽培できる品

種が出現したとしても、厳冬期での加温は当然必要となるであろうが、栽培技術の向上でこれを補ないたいものだ。

財団法人 日本植物調節剤研究協会

東京都台東区台東1丁目26番6号

電話 東京(03) 832-4188 (代)

昭和59年3月発行

植調第17巻第12号

¥300 (送料170)

編集人 日本植物調節剤研究協会専務理事 吉沢長人
発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03) 833-1821 番(代)

適期防除で 確かな効果—!

低温でも安心して使え、周辺作物にも安全な

アピロサン®粒剤

- 1年生雑草及び、ヒルムシロ・ヘラオモダカ・ホタルイ・ミヅガヤツリを経済的に防除。

水田雑草の総合防除に

ワイダー®粒剤

- ヒエはもとより、ウリカワ・クログワイ・ミヅガヤツリ・オモダカ・ヘラオモダカ・ヒルムシロなど多くの多年生雑草に高い効果。



アピロサン・ワイダー普及会

武田薬品・日本チバガイギー
石原産業・BASFジャパン

らくらく散布で多年草も防除



容器のまま代かき時に

散布できる水田除草剤

デルカット® 乳剤

(オキサジアゾン・ブタクロール除草剤)

★安全で省力的な機械散布もできます。

——— デルカット普及会 ———

日産化学・北興化学・昭和ローディア化学・日本モンサント
〈事務局〉日産化学工業㈱農薬事業部内東京都千代田区神田錦町3-7-1

®：日本モンサント(株)登録商標

ホクコーの水田除草剤

●多年生雑草にもよく効く新除草剤

デルカット[®] 乳剤

●これからの水田初期除草剤!!

モーダウン 粒剤

●ヒエに抜群の効果。ホタルイ、ミズガヤツリにも卓効!

マーシェット 粒剤5

●長い効きめで省力防除が可能

クサカリン[®] 粒剤25

初期除草剤との体系で **グラキール** 粒剤1.5
セリにも効果のある水田中期除草剤 粒剤2.5



取扱い
農協・経済連・全農



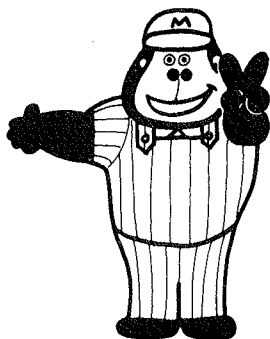
北興化学工業株式会社

〒103 東京都中央区日本橋本石町4-2
支店：札幌・東京・名古屋・大阪・福岡

お近くの農協でお求めください

これからの水田初期除草剤!!

モーダウン粒剤



特 長

- 殺草力が極めて高く、長い(20~30日間)残効性を示します。
- ノビエ、その他1年生雑草の他、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカにも卓効を示します。
- 温度や土壌の種類による効果の変動が少なく常に安定した効果を発揮します。
- 殺虫剤・殺菌剤との近接散布による薬害の心配がありません。
- 人畜毒性が低いので安心して使用できます。



農協・経済連・全農

あなたの農協でお求め下さい。



モーダウン普及会

北興化学・八洲化学・全農

事務局：ローヌ・プーランジャパン

〒107 東京都港区赤坂1-9-20 第16興和ビル別館



テーマは一点。アプローチは無限。

豊作——その確かな道をひらくために、
広く枝葉をひろげる三共農薬の技術。
きょうも広範、緻密な研究を通して、
より豊かな収穫への挑戦をつづけています。

* 初期一発処理剤

クサカリン[®] 粒剤25

* 稲に安全、多年生雑草

にも効く初期除草剤

サンバード[®] 粒剤

* 安定した健苗育成に

ダチガレン[®] 粉剤
液剤

* 天然物誘導型総合殺虫剤

カルホス[®] 乳剤 粉剤
微粒剤F



三共株式会社

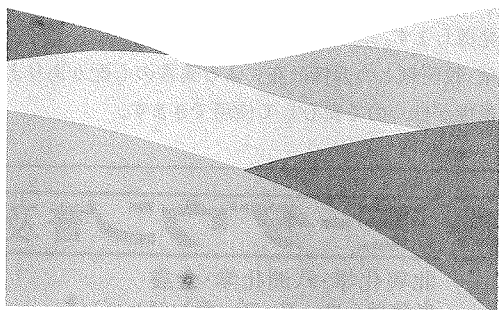
北海道三共株式会社
九州三共株式会社

緑ゆたかな自然環境を

効きめ鮮やか、畑いきいき。

[®] センコル 水和剤

ばれいしょ、アスパラガスの除草剤



特 長

- トリアジン系の土壌及び雑草処理剤です。
- イネ科、広葉、多年生雑草など適用草種の幅が広く、雑草4～5葉期まで使え殺草幅が広い。
- 土壌吸着が強く長期間雑草の発生を抑えます。
- 毒性が低く人畜、魚介類に心配はありません。



日本特殊農薬製造株式会社

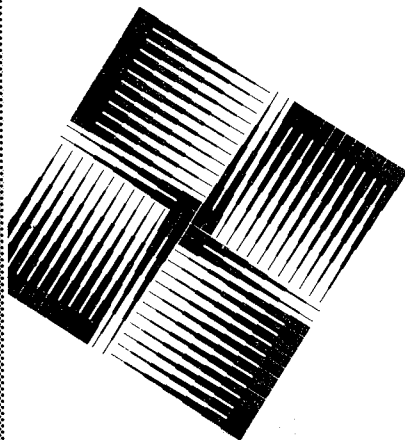
東京都中央区日本橋本町2-4 番103

一日瞭然 効きめが見える

水田多年生雑草防除に

バサグラン[®] 粒剤 水和剤

適用雑草 ● ミスガヤツリ・ホタルイ・ウリカワ・ヘラオモダカ・水田一年生広葉雑草



効きめと安全の信頼にこたえる



住友化学

東京都中央区日本橋2丁目7番9号

バサグラン普及会／

クミアイ化学工業・三共・

サンケイ化学・日本農薬・

北興化学工業・八洲化学工業

事務局＝住友化学工業

®は西ドイツBASF社の登録商標です。

雑草学用語集

日本雑草学会・編／B5判，220頁，上製本，3,000円（送料300円）

〔内 容〕

日本雑草学会では、以前より用語集の取りまとめが行なわれてきたが、このたび、学会創立20周年を記念してそれらを集大成して刊行する運びとなった。それが本書である。技術用語編、雑草名編、除草剤名編の3編からなる本書は、雑草学の研究にかかせない一冊であるばかりか、広く農学、植物学の研究にも十分に役立つ。専門研究者、技術指導者などの必携書。

●技術用語編：900余の用語をとりあげ、和英、英和、さらに主要な用語には解説を加えた。

●雑草名編：国内産の雑草約700種について、ラテン名、ラテン別名、和名、和別名、英名を記し、それぞれのリストに分けてある。

●除草剤名編：305種の除草剤をとりあげ、一般名、化学名、構造式、登録上の種類名、商品名、試験名をあげた。

除草剤・生育調節剤使用基準（1982年版）

日本植物調節剤研究協会・編／B5判，704頁，定価8,000円（送料350円）

〔特 色〕

昭和57年2月末現在までの全登録除草剤、全生育調節剤を網羅し、あわせて各都道府県の57年度の使用基準を収録した。研究者、技術指導者、農協、農薬販売店などの必携書。

●除草剤・生育調節剤のすべてを解説。

●作物別からも適用除草剤・生育調節剤・使用法が調べられるように記載。

●各作物別・都道府県別に適用薬剤、使用法、注意事項を整理。

全国農村教育協会

〒110 東京都台東区台東1-26-6（植調会館）☎03(833)1821

これからは1回でキメる。



1度で済ます水田除草。

オーザが実現しました。

強力な殺草力で、一年生から多年生まで広範囲な雑草を長期にわたって防除。いままでの除草をガラリと省力・経済的にする待望の除草剤です。



水田初期一発処理除草剤

オーザ[®]粒剤

®:三井東圧化学(株)・日本モンサント(株)共有登録商標

オーザ普及会

日産化学工業株式会社
八洲化学工業株式会社
三井東圧農薬株式会社
日本モンサント株式会社

事務局

三井東圧化学株式会社
東京都千代田区霞が関3-2-5

確かさで選ばれる 初期除草剤マーシエツト。

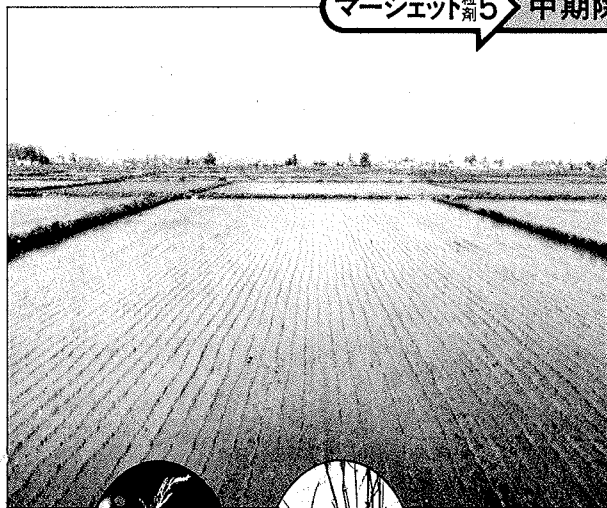
ヒエに抜群。マーシエツト粒剤5はホタルイ・ミズガヤツリも制す。

水田に最初にまく除草剤として不動の人気を得たマーシエツト粒剤5。毎年、皆さまに選ばれるのは①ヒエはもちろんホタルイ、ミズガヤツリ、マツバイなどを初期から確実に防ぎ②効めが30日以上と長く次の中期除草剤の散布に余裕ができ、③水田雑草の体系防除が計画どおりにゆくからです。マーシエツト粒剤5で雑草を防除し豊かな収穫をあげてください。

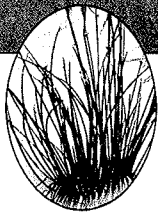
マーシエツト粒剤5

中期除草剤

豊かな実り



ヒエ



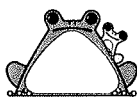
ホタルイ



ミズガヤツリ



マツバイ



水田に、まっ先にまく

マーシエツト 粒剤 5

除草剤

®米国モンサント社登録商標

マーシエツト普及会事務局

日本モンサント株式会社 農薬事業部

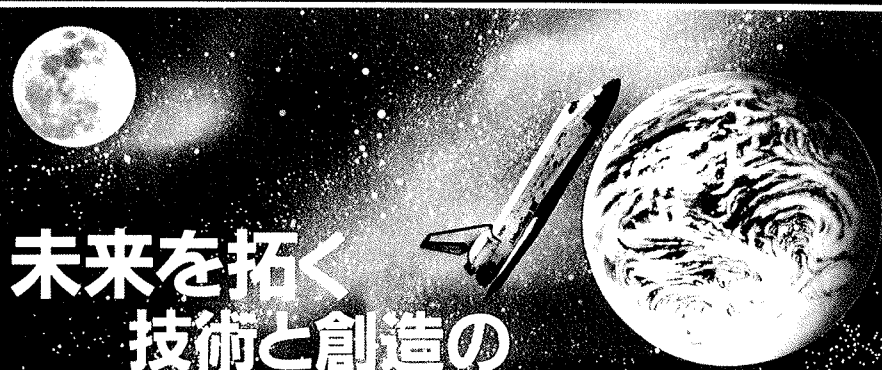
〒100 東京都千代田区丸の内3-1-1 国際ビル Tel.(03)287-1251

●詳しい資料をお求めの方は右の請求券をそえて、上記事務局までお送りください。



資料請求券
M-種間

昭和五十九年三月



未来を拓く 技術と創造の

クミカ水田除草剤

安全性・経済性・高い信頼

サターンS粒剤

サターンM粒剤

クミリードSM粒剤

★初期一発でも体系使用でも幅広く使える

グラノック粒剤

★稲に安全 一発処理剤のホープ

シルベノン粒剤

自然に学び 自然を守る



農協・経済連・全農



クミアイ化学工業株式会社

本社 東京都台東区池之端1-4-26 〒110-91

多年生・一年生雑草の同時防除に

マメット[®]SM 粒剤

マメット粒剤・マメットSM粒剤・オードラムM粒剤
を安全にご使用いただくために

日頃は、マメット粒剤、マメットSM粒剤、オードラムM粒剤をご愛用いただきまして厚くお礼申し上げます。

ご承知の通り、上記モリネート剤については養殖鯉に対する事故防止のため行政機関、指導機関、漁業関係者など関係諸団体のご協力を得まして自主規制に対する諸対策を実施しております。お陰様で、皆様にはこの主旨をご理解いただき、昭和55年度は本剤に起因すると思われる魚類事故は皆無になりました。ここに関係の皆様には厚くお礼申し上げますと共に、今後とも事故防止に一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

また、最近水田に散布された除草剤が隣接の野菜畑（特にウリ類など）に影響を及ぼすという問題が発生しておりますが、モリネート剤についても同様のおそれがあるので野菜畑に隣接した水田でのマメット粒剤、マメットSM粒剤、オードラムM粒剤の使用はさけるよう併せてご指導いただくようお願い申し上げます。

モリネート普及会